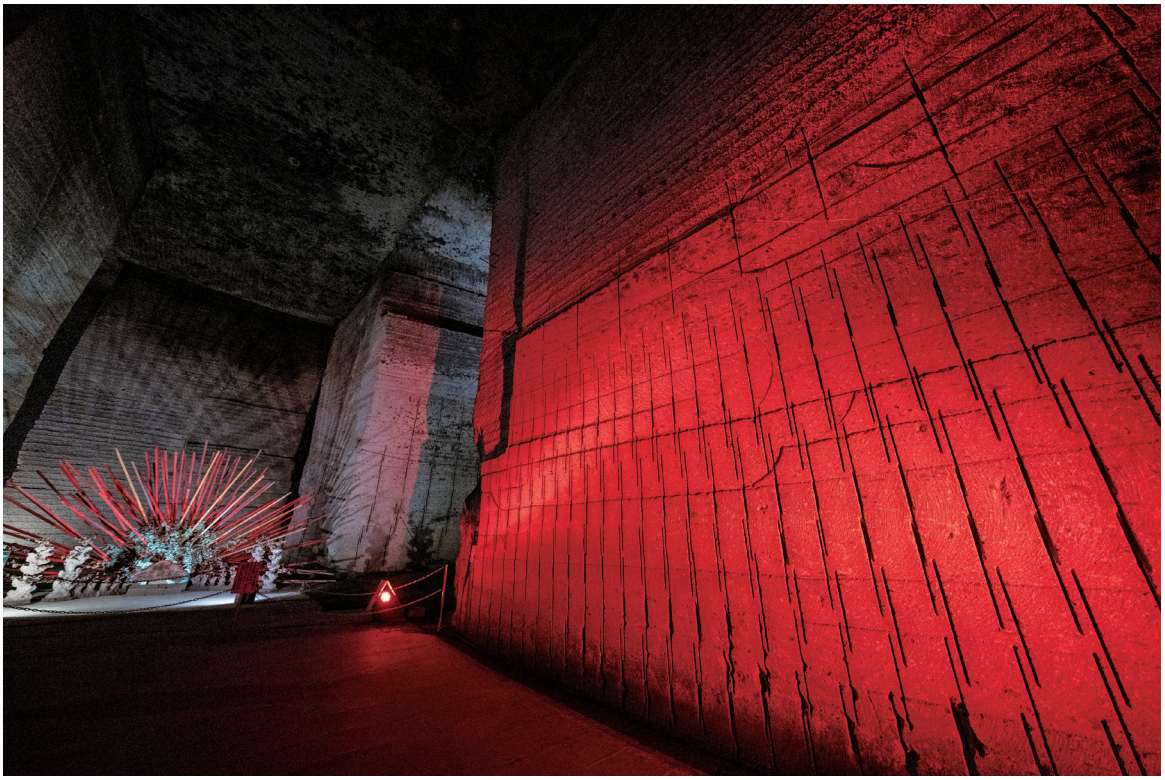
獨協医科大学精神神経医学講座

同門会誌



第14号

2022

目　次

1. コロナ禍の精神科医療３　佐藤勇人 …… 1
2. 下野の国に来て早や19年　下田和孝 …… 3
3. 「最後の晩餐」 …… 6
   下田和孝（獨協医科大学精神神経医学講座）
   原　淳子（医療法人原会　原病院）
   駒橋　徹（特定医療法人清和会　鹿沼病院）
   朝日晴彦（医療法人朝日会　朝日病院）
   萩野谷真人（医療法人直志会　袋田病院）
   小西　徹（獨協医科大学病院）
   尾関祐二（滋賀医科大学精神医学講座）
   藤井久彌子（滋賀医科大学精神医学講座）
   古郡規雄（獨協医科大学精神神経医学講座）
   菅原典夫（獨協医科大学精神神経医学講座）
   小野崎弥生（獨協医科大学精神神経医学講座）
   吉田良太（獨協医科大学精神神経医学講座）
   光野真人（獨協医科大学精神神経医学講座）
   鈴木桜子（獨協医科大学精神神経医学講座）
4. 近況報告　黒田仁一（医療法人社団松籟会 宇都宮西ヶ丘病院） …… 25
   北原亜加利（筑波大学大学院） …… 26
   佐伯吉規（公益財団法人がん研究会　有明病院） …… 28
   林　有希（医療法人恒昭会　藍野花園病院） …… 30
   高野有美子（医療法人社団　大栗内科） …… 31
5. 「第56回栃木県知事盃争奪ゴルフ大会シニアの部」に優勝して
   松村　茂（特定医療法人　氏家病院） …… 33
6. 研究紹介　古郡規雄（獨協医科大学精神神経医学講座） …… 37
7. 関連病院紹介　川俣安史（医療法人桂慈会　菊池病院） …… 39
   石川高明（医療法人仁和会　埼玉江南病院） …… 41
8. 令和３年　外来統計　岡安寛明 …… 43
9. 令和３年　入院統計　篠﨑將貴 …… 45
10. 教室便り　人事往来 …… 47
    2022年４月現在の講座スタッフ …… 47
    新入医局員挨拶　眞銅佑之介 …… 48
    専攻医紹介　長谷　達 …… 49
11. 新博士誕生　佐々木太郎（獨協医科大学精神神経医学講座） …… 50
    佐々木はづき（獨協医科大学精神神経医学講座） …… 51
12. 2021年講座業績 …… 54
13. 編集後記 …… 71

コロナ禍の精神科医療　3

獨協医科大学精神神経医学講座同門会　会長
佐　藤　勇　人

緑薫る季節となり、ようやく寒さも和らいでいる中で原稿を書いております。

今回のテーマの「最後の晩餐」に原稿依頼は受けておりせんが、強引に参加させていただきます。私の最後の晩餐は、吉野家の特朝定食を食べたいです。うけを狙っている訳ではなく、これには、日本人として心である米と味噌汁にのり・シャケ・卵・納豆がついて580円とお得となっているのです。のり・シャケでご飯一膳／納豆・卵でご飯一膳を食べて人生を閉じたい。（タイムリーな話題として、吉野家の常務が女性蔑視発言で令和4年4月18日に解雇となり、新発売予定の新親子丼が発売延期となった。この人TVで観た事あるけど、いい感じの人に見えたけど……気をつけないと明日は我が身！）

わが巨人軍は、昨日（4月19日）坂本勇人のホームランで広島に快勝！！現在セリーグ首位を快走中。今年は昨年と違い外人選手が働く働く。メジャー96ホームランのグレゴリー・ポランコ左打ち、守備はめちゃ下手で高校生並みでメジャー歴は浅いが、マイナーで活躍したアダム・ウォーカー右打ちでともに外野手。今年は大勢と赤星のルーキーも働いており、やっとスカウトが仕事したかなという感じ。大勢の球が若干シュート回転するのが気に入らないが、このままいければいいけど無理だろうね。（と調子に乗っていたら、菅野が右肘違和感、坂本が右膝靭帯損傷で登録抹消。阪神に3連敗中で気分悪し。今年もダメかな…）

そんな中で新型コロナの第6波の患者数が下げ止まりで全国的に感染が治まりません。

4月19日時点で栃木県713名　東京都5583名　全国49893名の患者数が上下する毎日です。オミクロン株XEが注目されていましたが、この変異株とやらと我々はいつまで付き合わなければいけないのでしょうか？第6波が治まっていない中で、第7波の襲来が囁かれ、4回目接種の準備が各自治体・医師会で進められています。

街の人出は、以前程ではありませんが、大部戻っている印象です。世間的にはVSコロナからWithコロナにシフトして行くのでしょうか？

精神科関係では、令和3年度は県内2か所のクラスターがあり、県障害福祉課　栃木県精神衛生協会　保健所と協力して対応にあたっております。

病院管理者は、毎日ひやひやしながら過ごしていると思います。特に職員家族が罹患した場合に職員本人にPCR検査を施行した時の結果がでるまでモヤモヤしていて、心臓に悪いです。

陰性でも同居療養時は、2週間程休ませなければいけないのが、人出不足の折には痛いです。

新型コロナの要因で精神疾患を発症したり、原疾患の悪化につながる症例も依然として出ています。戦いはまだ続きますので、同門会員の皆様には、頑張って下さいとしか言えません

日々の忙しさの中で、ふと思う事が「精神科ってこんなに忙しかったっけ」です。私の病院も以前より外来患者数は増えていますし、たまに獨協に行くと、外来の混み方がすごいです。

入退院数が増えており、入院→治療→退院のサイクルが短くなっており、のんびりはできないです。私が入局当時のように、週1回野球の練習をして飲みに行く暇はないですね。

我々が入局時は外科と内科が花形な存在で、精神科はマイナー科の印象が強かったです。

精神科がこんなにもてはやされる科になったのは、何故か？『新型うつ病に端を発したうつ病ブーム』『高齢化状況からの認知症問題』『発達障害ブーム』『いじめ　不況　貧困　自殺などの世相的問題』などが、挙げられます。この傾向は地域差がありますが、全国的なものです。

もてはやされるのは、あながち悪い事ではない。さびれていくよりずっといい。

それが、医局員の増加と栃木県の精神医療の発展につながるなら、「忙しい」を受け入れましょう！！精神科に興味をしめし入局してくれた若い子達が、恒久的に飯が食える環境にしていく事も我々世代の責任ですから。私も酒をのみジャイアンツを愛しながら、頑張ります。

当院の近況ですが、派遣で昨年より常勤勤務してくれた田﨑先生が岡本台病院に異動となりました。よく働いていただきました。入院・外来患者の治療や m-ECT の施行等に加えて、臨床研修医の面倒をみてくれました。

教え方も的確で丁寧で、彼女に沢山の研修医が感謝しています。「教える事は覚える事」ですから、自身の力にもなったことでしょう。

将来は精神科指定医　精神科専門医として当院に帰ってくると信じています。

（コロナ禍であり、先生とは1回しか飲みに行けなかったのは残念です。お誘い申し上げます。）

5 月期より眞銅祐之介先生が週 1 回パートで当院勤務となります。

是非とも、当院に勤めた事で先生の人生が豊かになる縁である事を願っております。

因みに当院の病院理念は『人生を豊かにする病院』ですから。

PS：ウクライナ問題について一言。

ウラジーミル・プーチンが信用できない男である事に、遅きに失したけど、やっと日本中で気が付いたよね。KGB出身の大統領であり、反対勢力を次々と暗殺や勾留している冷酷な男が北方領土なんて返すはずがない。この男に関わらない事を節に望みます。

日本の政治家にも一言。

他国の不幸な戦争に乗じて、核保有を唱えている政治家が出ている。

日本が世界唯一の被爆国である事を忘れているのかな？

岸田さん頑張れよ。あなたは被爆した広島県選出の総理大臣だろ！！

しゃけ、納豆、玉子、のりがついて、栄養バランス良好の定食です。

下野の国に来て早や 19 年
～心のふるさと FKD ショッピングモール宇都宮インターパーク店～

獨協医科大学精神神経医学講座
下　田　和　孝

獨協医科大学に母校・滋賀医科大学から助教授（当時の呼称）として赴任したのは 2003 年 1 月 1 日であったから、2022 年 1 月で下野の国にきて 20 年目に入った。まさに time flies である。

シモダが獨協医科大学に赴任する直前の 2002 年 12 月 25 日に西武百貨店宇都宮店が閉店していた。それをさかのぼること 2 年前の 2000 年 12 月 20 日、上野百貨店が閉店していたし、JR 宇都宮駅前にあったロビンソン百貨店も 2003 年 9 月 30 日に閉店してしまったので、いわゆる「デパート」は東武宇都宮百貨店のみであった。

当時、シモダは助教授であったが、獨協医科大学精神神経医学講座は医局員が諸事情から急激に減ってしまい、2003 年 4 月には入局者ゼロであった。さらに翌年の 2004 年 4 月からは新臨床研修制度が開始されることになっていたので、2004 年 4 月、2005 年 4 月も入局者は望めないという極めて厳しい医局運営の状況に直面していた。そういう苦境と大型百貨店が次々と閉店していくこととが、何かシモダの心の中で重なって、日々、大変重苦しい気持ちだったのを記憶している。

そんな折、北関東自動車道　上三川（「かみのかわ」と読みます）インターチェンジの近くに 2003 年 7 月 23 日にできたのが福田屋百貨店インターパーク店（正式名称　FKD ショッピングモール宇都宮インターパーク店）である。獨協医科大学のある壬生町からは北関東自動車道　壬生インターチェンジから北関東自動車道にのり、かっ飛ばせば（法定速度内で。。。）、約 10 分で到着できる便利な立地にある。当時のシモダは単身赴任であったし、近隣のスーパーよりはちょっとおしゃれな食材がそろっている FKD インターパーク店に足繁く通っていた。日曜日の午後、時間のある時には山下達郎氏の ”Sunday songbook” や「福山雅治の SUZUKI Talking F.M.」を聞きながら北関東自動車道を使わずにゆっくりとインターパークまで行くことも多かった。獨協医科大学のスタッフからは「シモダ先生はインターパーク、大好きですよね」とよく言われた。「そうです、好きです」と心の中でつぶやいていた。

インターパークで食材を買った後、ビアードパパのシュークリーム（これ、cost performance、サイコーです！）を頬張るのがほっとする時間であった。何より新しい建物と内部の明るい広々とした感じが、当時のシモダの鬱屈とした気持ちを一時的にでも晴らしてくれたからだと思う。そうそう、そういえば、「直訳ロックの王様」に初めてお目にかかったのもインターパークだった。

その後、インターパークはインターパークショッピングビレッジ（IPS ビレッジ）が 2005 年 11 月 23 日に、インターパークショッピングスタジアム（IPS スタジアム）が 2008 年 10 月に、

インターパークショッピングステージ（IPS ステージ）が 2013 年 12 月 1 日に開店し、発展してきた。これも時期を同じくして獨協医科大学精神神経医学講座の機能・業績が回復してきたことと、どうしてもシモダの中では synchronize してしまうのである。

先日、いつものようにゴルフ練習（@上三川つくばジャンボゴルフセンター）のあと、インターパークを外から見た時、「ずいぶん古ぼけてきたなあ、でも、とっても世話になったなあ」と感じた。20 年近く経過したわけだから古ぼけるのは当然だが、「シモダもロッカーだのなんだのと言っても古ぼけてきたんだなあ、でもよくがんばってきたなあ」とも思ったのである。

写真1　FKDショッピングモール宇都宮インターパーク店　パノラマ写真　ガラスが古ぼけていて、20年の歳月を感じさせる。

写真2　店内フードコート　とにかく明るい！
この写真では見えないが、Kentukey Fried Chicken, Mister Donuts、Shakey's もあります。

写真３　ビアードパパ　　その場でシューにクリームをinjectするのでとても美味しい。単身赴任のころ、よく買ったが家では食べたことがない。なぜなら、家で食べようと思っても、我慢できずに車の中で食べてしまうからであった。

写真４　なかなかシャレオツな店舗も入っている。買う買わないは別にして気分が上がる。

写真５　ビアードパパとは対極をなす店、Café comme ça。　ここの「映える」ケーキの神通力はすごいものがある。写真右はGolden Week 2022　Mango Special。

――― 最後の晩餐 ―――

目玉焼き丼

獨協医科大学精神神経医学講座
下　田　和　孝

我々は、通常、一日３回食事をする。もちろん、「今日の昼は何にするかな」と考えることはあろうが、そんなに突き詰めて考えることは無い。所謂、「テキトー」に選んでいるのが普通であろう。それは仮に「失敗」「はずれ」であったとしても、数時間後には「口直し」ができるからということもあろう。

しかし、次のような場合はどうか。某国を旅行していた時のことである。わが国での常識は、ある国での非常識、よくあることである。悪意は全くなかったのだが、その国の重要な法律に抵触してしまい､処刑されることになってしまった。その国の元首様は誠に慈悲深い（？）方で「処刑前にそなたの好きなもの、どのようなものでもオーダーして食べてよいぞ。どのような国の、どのような食べ物でもオーダーするがよい。ただし、一品のみじゃ」と伝えられた。後にも先にも、この食事のみ、という状況に追い込まれている。小生がいつもやっているように売店で「あんぱんにするかな､それともメープルチュッロキー（Lawson のメープルチュロッキー､サイコーなのです）かなあ」「いやいや、タンパク質重視でサラダチキンか」などという「テキトー」にはいかないのは当然である。このような極限状況における選択の simulation を行っておくことは、その人の行動・判断に必ず役に立つであろう（ほんまかいな・・・）。

私がそのような状況であれば、目玉焼き丼をオーダーしたい。

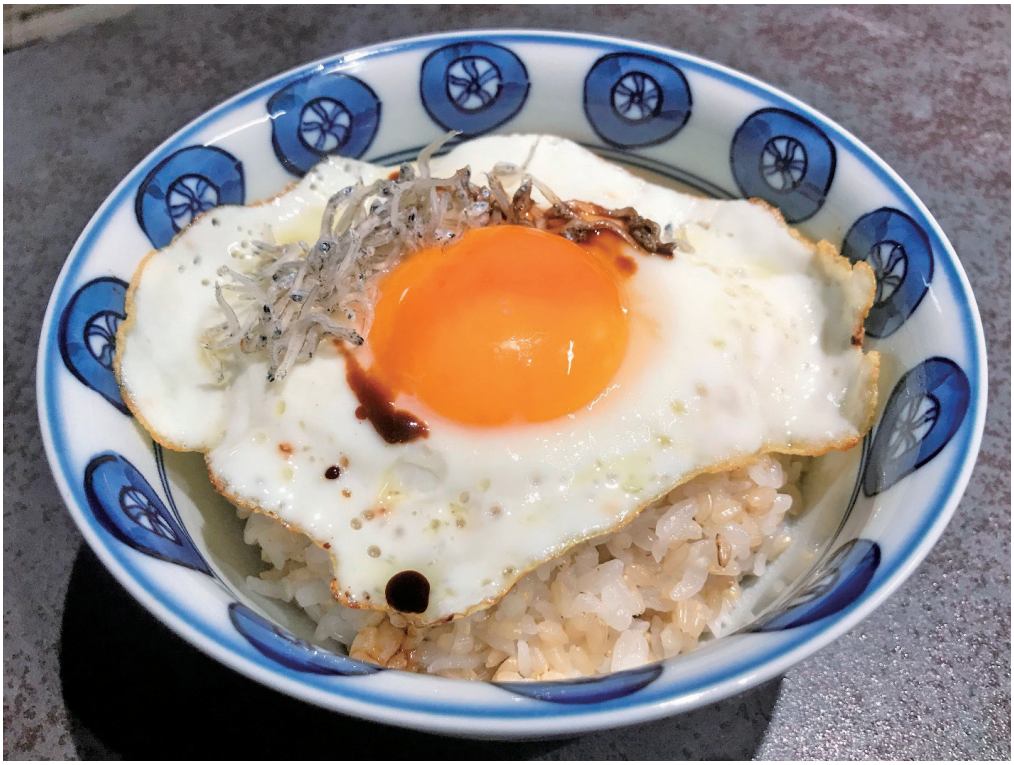
炊き立てのご飯の上に気味が半熟状態の目玉焼きを載せて、醤油をちょっと垂らして、黄身をつぶしてかっこむのである。もともとこれは漫画の「美味しんぼ」で知ったのだが、実際やってみると、加熱したことによって黄身の味が濃厚になり、本当に美味い！！

この場合、最上の卵、最高のコメ、究極の炊き方を求める向きもあろうが、このような食べ物の場合、最上・最高・究極のパーツを求めるとなんだかへんてこな味になるのである。であるので、処刑前の最後の晩餐担当者には「そこらのスーパーで売っているほどほどの卵で目玉焼きをごく普通に焼いて、普通のコメを普通の炊飯器で少々硬めに炊いてほしい。しかーし、目玉焼きについては、白身は硬め、一方、黄身は半熟になるところのぎりぎりのところを見切って、裏面は焦げてはならぬ。そこんところ、よろしくお願いします」とオーダーをしたい。

こんな時に元首様に何も懇願しないというのは悔しいので､「慈悲深い元首様、後生ですから、薬味になるものをなんとかつけてもらえませんか。。。ちりめんじゃこを目玉焼きの上にちょっと

だけ乗せてもらえば、もう何も思い残すことはありません」と言うだろう。

目玉焼き丼、本当においしいです。お試しあれ。



最後の晩餐

＜カットスイカ＞

医療法人原会　原病院
原　　淳　子

上野駅下り新幹線ホーム。各駅停車高崎行き。１本逃したが最終までには充分時間がある。初夏の夜、日中のそれとは異なり、ちょうどいい湿り気を含んだぬるい空気がやんわりと心地よくほほをなでる。ホームには線路安全を確認する、水色の作業着に黄色いヘルメットをかぶった作業員と私だけ。私は立ったまま、駅ビルスーパーで購入したプラスチック容器のふたをしくじらぬようにゆっくり開ける。一口大のさいの目にカットした、甘い果汁をたっぷり含んだ赤いスイカが数個。ふたにはプラスチック製のフォークもついて、すぐに食べられる。新型コロナ感染症の厳しい行動制限もやや緩んできたがリモートワークが推奨されこんな時間に列車移動する人間は少ない。はばかる人目もなく、堂々とカットスイカを口中にかみしめる。

都会のライブハウスもアルコール提供の制限、入場者数を減らしたり、開始時間を早めたり、工夫を凝らして再開した。アーティストはこれまでのセットリストをぎゅっと詰めて、スマホの時計を気にしながら演奏。ビール一杯のおごりで、演奏の余韻を共有する時間はまだ許されない。それでも演奏者の呼吸や楽器が奏でる音の粒粒を身体で感じた私の嬉しさの興奮で乾いた口がスイカの果汁に満たされる。言葉ではいい尽くせない豊かな満足を感じる。

昨日と同じように繰り返される今日を送れば、明日からも同じように過ぎてゆくだろうと思っていたのはすでに何十年も昔の一時期だけのこととなった。同列にしていいものかもわからないが、勤務医不足による病院経営の危機、大震災、新型コロナ感染症院内クラスターなど経験した。今日のテレビニュースでは灰色一色の戦場画面ばかり。

昨日とは一変する今日が始まるかもしれないという危機感がぬぐえない日常となった。それでも、きっと今日をしっかりと送ることで、ちゃんと明日が来る。そう信じて繰り返した日々（人生）の最後の晩餐には上野駅ホームで食べたカットスイカを切望する。

最後の晩餐

特定医療法人清和会　鹿沼病院
駒　橋　　徹

大学の卒業旅行（ヨーロッパ周遊）時にイタリア・ミラノにあるサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院へ行きレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」の壁画を見る機会がありました。今回は自分の最後の晩餐です。子どもたちが巣立ってから夕食にお米を食べなくなりました。ゆるい糖質制限食です。何らかのアルコール飲料を嗜みながらおつまみを食べています。自分でつまみを作ることも多いです。本当は日本酒が一番好きなのですが、大学生の頃から血糖値が正常高値を示しているため、糖質が少なめという赤ワインに行き着きました。蒸留酒の方が糖質は少ないですが、私は醸造酒の方が好きみたいです。私の最後の晩餐には、是非、フランス・ブルゴーニュ地方の赤ワイン、ロマネコンティを飲みたいです。ロバート･M･パーカーの「ブルゴーニュ」という本によると、”ブルゴーニュの赤はピノ・ノワールから作られるため 10 年を超える寿命を保つだけのタンニンを欠き、概して奥行きと濃度が足りない。加えて、ピノ・ノワール種の最大の見せ場は何よりもそのブーケのあるのだがこれが真っ先にやつれ衰えてしまう。極上の年であれ収穫後 10 年以内に飲みきるのが良い”と書いてありました。それで、できが良かったとされる 2015 年物を頼みたいです。（ネットで調べたら 1 本 110 万円というものが見つかりました。）飲み物だけではなく食べ物を許して頂けるなら迷わず魚の刺身を依頼します。赤ワインには肉を合わせるのがマリアージュの基本ですが、私は魚の刺身とともに赤ワインを飲むのが好きです。（添付の写真は宇都宮中央市場にある米金水産で作ってくれる刺身の盛り合わせです。）

「そのような食べ物は認められん、ひとつじゃ」と言われても、しつこく「ブルーチーズいや、チーズなら何でも良いのでお願いします」と頼んでみます。やはり何かちょっとしたおつまみが欲しいです。それもダメというならキリストの最後の晩餐のように「せめてパンを……」と。

酒ばかり飲んで健康に良くないと下田先生から注意を受けそうですが、40歳を超えた頃から入浴前に腹筋・背筋・腕立て伏せ3セットとエアロバイク40分を日課にしています（これは私のルーチンで書かせて頂きました)。酒くらいは多少不摂生しても良いですよね。

――― 最後の晩餐 ―――

医療法人朝日会　朝日病院
朝　日　晴　彦

最後の晩餐か・・・やっぱり思いつくのは子供の時に食べた物かな。

実家の裏の孟宗の竹林で春になると取れた、たけのこ。甘く煮付けた、そのたけのこを食べたいと思う。

たけのこご飯も。

秋には西の林で栗が取れて、栗ご飯とむき栗。

柿はいろいろ取れて、普通の甘柿、渋柿は干して干し柿にして。サイズの大きい蜂屋柿は熟させてゼリー状にすると甘くてうまかった。

お正月に母親が澄まし汁で作ったお雑煮も。

欲張りだね。

人生の最後に何を食べたいか考える時､やっぱり考えつくのは子供の頃に食べた物になるよね。

もう 40 年も前になるんだな。

「最後に」ということで考えると食べ物に限らず、いろいろとあるよね。

風景や景色となると、春になると実家に何本もあった桜の木に咲いた満開の桜の花。秋の庭の木々の紅葉とキンモクセイの香りか。

懐かしい音はトタンを打つ雨音、風にざわめく笹の音（最高だね、心が休まるよ）。

昔よく聞いた音楽。赤い鳥のＡ面「竹田の子守歌」､Ｂ面「翼をください」。陽水「氷の世界」。バルビローリのブラームス四番。Carole King の「You've Got a Friend」（つづれ織り）。中島みゆきの「あぶな坂」「ホームにて」「アザミ嬢のララバイ」（昔のみゆきさんは暗いなあ）。

最後に会いたい人もたくさんいるよね。数えきれないな。

でも俺はまだ死ねません。ここで死ぬわけにはいかねえ。ここで死んでたまるか。

短慮小心の俺だけど、最後くらい自分に負けたくない。

だから最後の晩餐はまだまだ先だってことで。

おしまい。

――― 最後の晩餐 ―――

～貧乏学生時代を支えたカップラーメンぶっこみ飯～

医療法人直志会　袋田病院
萩野谷　真　人

まず初めに同門会誌に寄稿させていただく機会をいただき、感謝申し上げます。同門の諸先生方が紡いだ文章を読むのも楽しみですが、こうしてコラムを書かせていただくことも悦びの一つです。

さて最後の晩餐には贅沢な洋食コースか、それとも母親の味か、いやここは“妻の手料理“と答えておくことが望ましいのか。今回のテーマについては妻から、「妻の手料理とか、わざとらしく気を遣わなくてヨロシイ」との認許を得ておりますので正直に思いつくままに書き綴ろうと思います。

私は獨協医大の学生時代はサッカー部に所属しており、下手ながらも真面目に練習に励んでいた素晴らしい思い出があります。講義はサボっても部活のためにグラウンドに出るという姿勢で国家試験直前の６年生の１月まで部活に参加していました。サッカーではボディコンタクトがあるため、筋肉を付けて強くなりたいと部活後や練習のない日には個人的に筋トレを行うという努力もしておりましたが、しかし脂肪は落ちるものの、なぜか一向に筋肉が付いてこないのです。体質・遺伝の問題なのか、と当時は悔しい思いをしていましたが、その原因を理解したのは、つい数年前でした。食事・栄養に問題があったのです。

学生時代は本当に貧乏学生で食費を切り詰める他ありませんでした。そのため、たくさんの仕送りを受けている友人は外食に行くところを私はボロアパートで自炊をする生活でした。実家が兼業農家であったため白米だけは好きなだけ送ってもらうことができたので、安く、手っ取り早くお腹一杯なるために 100 円で買ったカップラーメンに白米を投入する、『カップラーメンぶっこみ飯』を頻繁に食べていたのです。このセットで食べてもタンパク質は１食10gあるかないか。仮に１日３回これを食べてもたったの 30g しかタンパク質が摂取できない計算です。運動習慣のない健常人でも１日に体重 1kgあたり 1g のタンパク質が必要で、アスリート・スポーツ選手では体重 1kgあたり 1.5 ～ 2g のタンパク質が求められています。つまり私はタンパク質が全然、足りていなかったのです。これでは筋肉も付かない訳です。炭水化物×炭水化物という偏った栄養バランスの食事でしたが、貧乏学生時代を支えてくれた『カップラーメンぶっこみ飯』の味を時々、懐かしく思い出す今日この頃です。人生の最後には意外にもこういった安っぽい物を食べたくなるのかなと思います。

最後の晩餐

獨協医科大学病院　精神神経科臨床心理士
小　西　　徹

最後の晩餐に草ですか？

いいえ

設定は教授の稿にある通りです。家族が好きなものを家族と、ではボツなんですね。なかなか絞るの難しい･･･、できれば写真もって･･･、焦げたから揚げのしか持ってないんですけど･･･

で、まずは、とにかく候補を考えてみることにしました。

獨協と言えば、ワタクシ的には、白子ポン酢。勤め始めてまもない頃、若い先生たちに（私も当時は若かったです、たぶん）、連れて行ってもらったお店で、ある先生が注文しました。私は、初めて見た食べ物で、衝撃！・・・でも、おいしかったです。注文した先生には、「渋い！」「グルメ！」と思いました（その節はありがとうございました）。

次に、酢豚。大学生のときに、学生食堂で友人たちとよく食べていました。初めてパイナップル入りを体験したので、再び衝撃！（というか、こっちが前なので、再びではない）・・・でも、好きでした。最近は黒酢を使ったのも多いですが、あのケチャップ丸出しであまあまなのも懐かしく、青春の味ってかんじです（でも、「好きでした」って、におわせじゃないから）。

・・・と、ほかにもいろいろ巡っていって、子どもの頃の草餅を思い出しました。祖父母が栃木県の片田舎に住んでいたんですね。春には、あぜ道で、おじおば、いとこたちと、よもぎを摘みました。そして、広い庭で、大人たちが餅をついてくれました。分けた餅は、指の跡がついていたり、たまに繊維が残っていたり。今となっては、それも味わいです。

結局、最後の晩餐のときには、苦みもでこぼこも別れもひっくるめて、まあまあな人生だったなと言えるようになりたいです。そのために、獨協での、栃木でのあと少しを精進しながら進みたいと思っています。本誌の読者には、ネット越しに患者さんとご家族も多いと聞いています。みなさんと過ごして、よくなってくれて嬉しかったことも、お役に立てなかったことも、最後まで覚えている予定です。

最後の晩餐は草ですか？　いいえ、思い出です（・・・ちょっと草かったような）。

――― 最後の晩餐 ―――

結論が出ぬまま提出しました

滋賀医科大学精神医学講座
尾　関　祐　二

皆様お変わりございませんでしょうか。平成 31 年 2 月まで獨協医科大学に所属しておりました尾関です。新型コロナウイルス感染症の影響で、なかなか直接皆様とお会いできない状況で残念な思いをしております。

さて、この度人生最後の食事を限定された状況で考えるお題を下田教授より頂きました。聞くところによりますと「最後の晩餐」はユダヤ教における過ぎ越しの祭りとしての意味があるそうですね。過ぎ越しの祭りの起源はある種恐怖の物語でもありますが、やはり最後の晩餐といった言葉には複雑な思いが付きまといます。

今回のお題においても食後に命を落とすということですのであまりのんびりとした食卓にはならないような気がしますが、まずは方針を考えてみました。ここで選択肢としては「今まで食べたもののうちで、もう一度食べたいもの」と「噂には聞いていたがまだ食べたことがないもの」の 2 択が思い浮かびました。ここで自分が持つ本来的な傾向からは食べたことがないものを選択することにしました。そこで少しでも命を長らえさせるのであれば満漢全席は良いかもしれません。特に子供のころから気になっていたものに熊の手のひらがあります。ウキィキペディアによれば左前脚が最上級だそうです。てのひらの何がおいしいのか、確認しないと死んでも死に切れません？内容も実際には伝わっていないようですので、調べる時間も必要かもしれません。と、ここまで考えた時点で、当初からの疑念が再び頭の中で大きくなっていきました。その思いとは「死ぬ直前に食欲がでるのか」ということです。食欲増進も中華縛りで考えますといくつかの漢方薬が先生方の頭の中にも浮かぶことかと思いますが養命酒もその候補になるかもしれません。ただし食欲不振にはじっくりと聞いてくるそうで、即効性は期待できそうにありません。そもそも健康になる必要がありません。と次々と思考が流れていきまして気が付くとなんだかずいぶんと遠いところに来てしまいました。このようになんだか簡単なことを難しく考える結果、ずいぶんと的外れな方向へ進んでしまうのはいつものことです。こうした現象は観念奔逸というか単なる注意の障害でしょうか。まだ立ち止まれるだけましと思いながら複雑な思いをもって、結論に至らぬままに終了とさせていただきます。結局単にこれというものが思いつかなかったということでした。

ここはどこ？：いつも迷子です。

――― 最後の晩餐 ―――

「決められない」

滋賀医科大学精神医学講座
藤　井　久彌子

私の体の半分以上は、お菓子でできている（と思っています）。「疲れたとき甘いものが食べたくなるわー」は、疲れていてもいなくても私にとっては毎日です。食べることも好きですが、おいしいお菓子を探して見つけることも大好きです。おいしいお菓子を判別するポイントはいくつかありますが、その中のひとつとして、「日持ちしない」ものはおいしい確率が上がります。日持ちしないのは不便ですが、そこも醍醐味。あとは、外来の診察室に初診の患者さんが来られたときに、目の輝きや視線などで「診断は○○の可能性高し」とまず、視診をおこなうのと同様に「お菓子の見た目」です。これには、自慢をよしとしない関西人ではありますが、あえて申し上げるとすれば、経験とセンスを要します（笑）。

本題とはずれてしまいましたが、私はお菓子が大好きなので、命が絶える前には、やっぱり私を長年癒してくれたおいしいお菓子を食べたい。しかしながら、お菓子に関しては「気分屋」なもので、その日の気分によって食べたいお菓子も異なるのです。

しもつけ彩風菓松屋の苺大福、小山にあるローレライのダコワーズショコラ、KOBORI の生チョコサンド、dough-doughnuts のゴージャスパフェやかき氷、羅布乃瑠沙羅英慕（最初見たとき、『怪しいお店』だと思い込みました）のパフェもさりげに結構イケます。鹿沼のアカリチョコレート・アンジェルにもっと早くに出会っていたらと思っています。神戸では素朴だけどおいしいのが、文明堂神戸店のカステラ巻（何個でもいけます）。一番舘のポーム・ダムールは食べ出したら止まらない。フロインドリーブのパイもクッキーも本当においしい。

「幸せやなー」と、にまにましながら好きなだけ食べていると、簡単に体重が増えてしまい増えた体重はなかなか減らない･･･、あ、でも、もうこの世の最後ならいいか。やっぱりひとつに選べない。改めて、栃木県にいたときには、皆さんに助けていただき、おいしいお菓子にも癒やされていたと思うのでした。

最後の晩餐

「あかねちゃん」

獨協医科大学精神神経医学講座
古　郡　規　雄

もともと卵は好きでも嫌いでもなく、卵かけごはんも何十年も食べていなかった。2年前に栃木県内の市町村のどこかにふるさと納税の寄付をしようと思い関連サイトを検索したら、真岡市の高級たまごが載っていた。真岡市に12000円を寄付すると返礼品で高級卵「茜」10個と専用醤油が返礼品として送られてくるので寄付した（写真）。この卵は「箱庭たまご茜」と呼ばれ、濃厚で一個300円の超高級卵であり、贈答用と言ってよい。私の知る高級たまごであるヨード卵光が1個50円であることからいかに高級かがうかがえる。しかも驚いたことに、この会社ではこの卵を使った「卵かけごはん」のおいしい食べ方を教えてくれている。まず、ごはんに醤油をかけ、まんべんなくかき混ぜ「醤油ご飯」を作る。一方、卵は黄身と白身を合わせてよくかき混ぜる。この溶き卵を醤油ご飯にかけさらにかき混ぜれば、絶品「卵かけごはん」の完成である。「茜」の殻はかなりぶ厚く普通の力では割れず、相当の力を要する。黄身はオレンジ色より赤く固い。醤油も普通の醤油ではなく、卵かけごはん専用醤油である。材料を突き詰めれば単純な料理ほど絶品に！まるで漫画美味しんぼの「究極のメニュー」の世界である。近日中に東京でこの卵を使った卵かけごはん専門店（1杯1000円）が出店し、増産体制に入るとのこと。また、この卵の黄身と白身で作ったそれぞれのプリン（赤と白）も絶品であり、ふるさと納税の返礼品として人気がある。

特筆すべきは、この養鶏場ハコニワファームは障がい者就労支援施設と連携し、養鶏場の仕事の86％を知的・精神・発達に障がいを持つ人が担当している点である。実際、私の患者がここで働いており、スタッフの人たちがとても親切とのことである。ふるさと納税でなく、直接この養鶏場に寄付を、さらに寄付より消費者として「茜」の定期購買をしようと思っていた。ところが連休中に前原先生に誘われ真岡市にあるサーキットでのひとり耐久レースに息子と参加し、2人分の参加賞として箱庭ファームの卵（たぶん1個200円）40個をもらってしまった（写真）。その直後から毎日が卵料理となり、「最後の晩餐」が「毎日の晩餐」となっている。

「箱庭たまご茜」というブランドと障がい者雇用の融合は、障がい者福祉として理想的であり成功例であろう。これに続く事業所が次々と出てき、結果として私の「最後の晩餐」の候補メニューが多数に増え、一つに選べない状態になれば、それはそれで最高である。

――― 最後の晩餐 ―――

梅干しおにぎり、あるいは梅ごのみ

獨協医科大学精神神経医学講座
菅　原　典　夫

極限状況における Simulation を行っておくこと、が何の役に立つかはよく分からないが、最後の食事をと言われて、実はそれほど究極的に食べたいものが浮かばないのも実際のところであった。たぶん、不意に処刑されることになって、「好きなもの、どのような食べ物でもオーダーしてよい」と言われても、同じようなことになるのだろうと気がつく。それでも、何かを頼まなくては損だという考えに至るのも自分の性格から考えて当然の帰結なので、そこからの思考過程を辿ってみると、、、。最後の最後にバタ臭い食べものはイヤだが、何か満腹感というか満足感の残るものにしたいと考える。その上で、変に異国情緒など求めず、基本に立ち返り、梅干しおにぎり、を希望するのだろう。海苔と梅干しとともに、アッサリ、しかしシッカリとお米を頂く、従容と死を迎え入れる晩餐にふさわしい逸品と思うがいかがだろうか？

そんなどこにでもありそうなもの、と思われるかもしれないが、存外に、この梅干しおにぎりにも、良いもの、そうでないものの差というものがある。それは、梅干しの差といってもよいのだが、少なくとも私は梅干しであれば何でもよいと思っているわけではない。よい梅干し、というものがあることは知っているつもりである。香りのよいもの、甘いもの、柔らかいもの、硬いもの、それはもう多種多様な梅干しが存在している。しかし、おにぎりにして食べたいと思うものは、私の場合、かつお梅の一択である。何しろお菓子ではない。食事なのである。仄かなものはともかくとして、甘すぎるものや梅の香りが強すぎるものはNG である。酸っぱいのは嫌いではないが、程度というものもあるだろう。とはいえ、日本国内に居てすら、私の思う理想の梅干しというものにはなかなか出会えないもの。今回のように異国の地で、突如、死刑を宣告されるような場面で、急に理想の梅干しが入手できるものでもないだろう。こんな時に、最高ではないまでも、ほどほどの梅干しおにぎりを食するために、どうすればよいだろうか？

さんざん、上で梅干しについて、うるさそうなことを書いておいてなんであるが、実はほどほどの、かつお梅を食したいのであれば安直な選択肢があったのである。それは、、、かつおも入っている梅ペーストである。スーパーに行くと梅ごのみ、などの商品名で簡単に入手が可能である。もともとパスタの風味づけに使っていたものであるが、ある時、その本来の用途通りに白米と併せて食してみたところ、存外にこれが好みの梅干しの風味に近いということが分かった。さまざま梅干しを試してみたが、梅ごのみを超えるほどのものは、実はそれほど多くない。かつお、しそ、だけでなくリンゴまで混ぜ合わせているので、さんざん上げ底したうえでの美味しさといえば、そうなのではあるが、安直に理想に近い梅干しを味わえるのはありがたい。梅干しが嫌いというのでなければ、一度、試してみられることをお勧めする。

――― 最後の晩餐 ―――

曽祖母の草もち

獨協医科大学精神神経医学講座
小野﨑　弥　生

2019年4月に下田教室に入局し、埼玉県に二年半出向しておりました小野﨑です。どうぞよろしくお願い致します。

さて「最後の晩餐」で私が食べたいものは、曽祖母の草もちです。1990年（明治33年）生まれの曽祖母は越後本土出身、朱鷺が飛んでいるのを日常的に目にしていた世代です。毎晩台所で鰹節を削るところから夕食を作り始める人で、趣味は和菓子作り。毎年彼岸になると幼少期の母と草もちを作っていたそうです。

私が生まれる前に曽祖母は亡くなってしまいましたが、私は小さい頃、そんな思い出話を聞きながら母に草もちの作り方を教わりました。完成するまで大変手間がかかる上に日持ちもしないのですが、鼻に抜けるヨモギの清々しい青臭さが、幼い日の懐かしくも楽しい日々をありありと呼び起こしてくれます。

草もち作りは、まず天気の良い春の日に早起きしてヨモギを摘みに行くところから始まります。菊と似ていて葉の裏が白いのがヨモギ。歩きながら群生している所を見つけたら、柔らかい葉の部分だけ選り分けて摘みます。ようやく昼頃、二、三袋がいっぱいになったら帰宅し、綺麗な葉の部分だけを残し､混ざった茎を捨てて煮ます｡すっかり体積の減ったヨモギを細かく刻み、すり鉢に入れてスリコギでできるだけ細かく擦ります。すり鉢を扱うにはコツがいるので、フードプロセッサーで代用しても構いません。

ヨモギの量に応じて目分量で米粉に水を混ぜて練り、蒸し器に布巾を敷いて白いお団子をふかし、ヨモギと混ぜます。混ぜ合わせた緑の餅を、親指と人差し指で作った輪から一口大にひねり出したら出来上がり。ちょうどおやつの時間になっています。きな粉と砂糖を半々に混ぜたものを付けながら冷めないうちに頂きます。

作るのが大変な方は「しもつけ彩風菓　松屋」の草餅をどうぞ。こちらは餡子入りですが、ヨモギの香りが素晴らしく、春を楽しめること請け合いです。

―― 最後の晩餐 ――

最後の晩餐との執筆依頼がきてから

もう少しで２ヶ月が経とうとしており

獨協医科大学精神神経医学講座
吉　田　良　太

最後の晩餐との執筆依頼がきてからもう少しで２ヶ月が経とうとしており、そんなことも忘れていた今日この頃、執筆の催促がきてしまったので急いで原稿を書こうとしているところです。

最後の晩餐と聞いて真っ先に思いついたのは、私が子供の頃より愛してやまない「麻婆豆腐」です。物心ついた頃から、私の家の食卓には母の手作りの麻婆豆腐が並んでおり、それを見るとテンションが爆上がりしていたことを思い出します。あくまでもおかずとして食卓に出るのですが、麻婆豆腐が作られた日は、米をガン無視してひたすら麻婆豆腐だけを満腹になるまで食べるのがこの上なく幸せなのです。

最近では丸美屋の辛口麻婆豆腐にどハマりしています。お店で売られている麻婆豆腐や飲食店で食べられる麻婆豆腐ではなく、丸美屋の麻婆豆腐の素で作る麻婆豆腐が好きなのです。一時期は５～６人前を作り食べていた時期もありましたが、ダイエットを機に、今は２～３人前までに抑えております。

なぜこんなにも麻婆豆腐が好きなのか真剣に考えたことがあります。豆腐は好きですが、豆腐単独で食べたいとはあまり思いません。しかし麻婆豆腐となると話は違います。豆腐に絡むピリ辛の餡、ゴマや豆板醤の香ばしい風味、生姜やニンニクの食欲をそそる香りなど自分にとってドストライクな料理が麻婆豆腐なのです。しばらくは最後の晩餐として、麻婆豆腐が君臨し続けると思います。今後はぜひ美味しいお店や本場中国で麻婆豆腐を食べてみたいものです。美味しいお店があったらぜひ教えてください。

写真は最近作った麻婆豆腐

――― 最後の晩餐 ―――

最後の晩餐といわれても

獨協医科大学精神神経医学講座
光　野　真　登

最後の晩餐と言われても、とりとめもなく次から次に食べたいものが浮かんできて、なかなか1つに決めることができない。

私は将棋が趣味で偶に中継を観ているのだが、タイトル戦で対局者が食べていた特上うな重はおいしそうだと思った。子供の頃に祖母が作ってくれた味噌おにぎりも好きだった。グルメ漫画で出てきた料理、せっかくならファンタジー漫画に出てくる架空の食材を使った料理も食べてみたいものであるが、最後の晩餐といえど実現できないだろう。昨年1日3食のうち2食お世話になることが多かった職員食堂のメニュー、特にきつねうどん（サラダと野菜ジュースもつけて550円）を再現してもらうのも良いかもしれない。食べたいものはたくさんある。もっとも語彙力が貧しいため何を食べても表現する言葉は「旨い」「美味しい」しか持ちえないのだが。

結局、色々と考えた結果、実家で家族と一緒に母親の手料理を食べたいと思う。今回、「某国で処刑前にどのようなものをオーダーするか？」というシチュエーションとのことなので、前提条件に沿っていない回答になってしまうのだが、外国で処刑前に一人で食べたらどんな好きな料理であっても美味しいわけがない、と考えてしまうので目を瞑って頂きたい。

センター試験の点数がボーダーを下回っている大学の受験のときに、知らない土地で一人で食べたご飯がおいしくないように、国試で踏んだ禁忌選択肢が頭に過った状態で食べるご飯がおいしくないように（実際2問踏んだ）、当たり前と言われてしまいそうではあるが、結局何を食べるかではなく、どんな状況でどこで誰と食べるかの方が重要でないだろうか。最高級の料理を処刑前に牢屋で一人で食べるよりも、苦手な料理であっても自宅で家族と食べたほうが満たされるだろう。

ということで、実家で家族そろって母の手料理を食べたいと思う。もっとも、そうするとメニューの決定権は自分にはなくなり、冷蔵庫の中身に委ねられることになりそうであるが、それでも満足できることだろう。

――― 最後の晩餐 ―――

炸攘茄子（ザーイョンケヨチー）（茄子のはさみ揚げ）

獨協医科大学精神神経医学講座
鈴　木　桜　子

好きな食べ物は？と聞かれると、「ハンバーグとプリン」と答えるのが常である。これは、例えばレストランでたくさんのメニューがある中で、悩んだ末にやっぱりハンバーグを選んでしまう、そんな経験からきっと好物なのだろうと思い込んでいるからだ。しかし、処刑前の最後の晩餐となると話は別であることに自分でも初めて気がついた。何がふさわしいのだろうかと、「お寿司かな、焼肉かな、デザートもいいけど甘いもので終わるのはちょっと違うなあ」などと呑気に１週間ばかり悩んだ（実際にこんなに悩んでいたら最後の晩餐を愉しむ前に息絶えているだろうが・・・）。

そうして、最後の晩餐に選んだのは「茄子のはさみ揚げ」である。これは母がよく作ってくれたもので家族の大好物であった。東京出身の母が明治屋クッキングスクールに通っていた時に習ったメニューだそうだ。豚肉と海老、生姜、長ネギを細かく切って混ぜたタネを茄子の間に挟み、ベーキングパウダーを混ぜた衣にまぶして揚げる。これをからし醤油につけていただく。衣はサクッ、茄子はジュワッ、中のタネはプリプリッ、唸るほど美味しいのだ。茄子好きにはたまらない一品である。今でも母がこちらに遊びに来る際にはたくさん作って持って来てくれる。それを夫と１週間ほどかけて大切に少しずつ食べる（夫も初めて食べた時からはまっている）のが至福である。

こうして茄子のはさみ揚げを想像している間にも、ふと母が作ってくれた手料理を思い出していた。母の作るハンバーグ、ミートソース、麻婆豆腐、混ぜご飯、かぼちゃのスープ、それからケーキにティラミス･･･挙げたらきりがないのだが、母の料理はどれも丁寧で愛情たっぷりだった。最後の晩餐として食べているのは一品であったはずなのに、私は母の料理をフルコース以上に堪能した。処刑を目前にしているにも関わらず、こんなにも満たされ、幸せな気持ちになったのだ。お腹も心も満たされるというのはまさにこのことであろう。

私も今は、夫や娘にご飯を作る日々だが、最後の晩餐に私の手料理が選ばれる日があれば、この上ない幸せだろう。そう言ってもらえるよう、また頑張ろうと思えた。

ザーイョンケヨチー
炸攘茄子

（レシピは年季が入っているので載せませんでしたが、ご連絡いただければお送りします。見た目は地味ですが、味は本当に美味しいです。）

―― 近況報告 ――

「近況報告」

医療法人社団 松籟会 宇都宮西ヶ丘病院
黒　田　仁　一

古稀すぎて描く未来図山笑ふ
岡真紗子

今年も新緑が目に染みる季節になりました。コロナは収まる気配がなく何かと不自由ですが、私のような自閉的人間にとっては都合の良いこともあり、不精をきめこんでいます。

冒頭に掲げた句はたまたま目に留まったもので、老いてなお未来への肯定的な気持ちが込められているのだと思います。今年７０歳になる自分はというと、残りの人生せいぜい十数年。あれこれ考えても実行する覇気もなく、低空飛行を続けるしかなさそうです。

６６歳で県立岡本台病院を定年退職した後も週２日続けてきた外来もお役御免となりました。現在は２年前からお世話になっている宇都宮西ヶ丘病院に週２日勤めております。残りの５日は家にいるわけで粗大ごみと化して家内に疎まれております。定年後に読もうと買いためてあった本、計画していた旅行、いずれも手つかず。酒も以前ほど飲めなくなりワインはセラーの外にあふれています。

まああれこれ考えずぼちぼち行きたいとおもいます。

―― 近況報告 ――

「近況報告」

筑波大学大学院スポーツ医学学位プログラム３年博士課程２年
慶応義塾大学スポーツ医学総合センター（訪問研究員）
自治医科大学整形外科教室（非常勤）
あかりこどもクリニック用務員兼副院長
北　原　亜加利

細かい字をみるために若干距離が必要になってきた、北原です。昨年から、筑波大学の大学院に入学し、スポーツのメンタルに関する研究をしています。アラフォーの私ですが、現在は華の女子大生ということになります！

私は身体も心も診ることができるスポーツ医を目標に、下田教授のもとで精神科の専門医を取得後は、慶応でアスリートメンタル外来をやらせていただきながらアスリートの「心」をみる力を養い、自治医科大学の整形外科の医局で主に外来をやらせていただきながら「身体」を見る力を養ってきました。昨年行われた東京2020大会では、微力ではありますが選手村に設置されたポリクリニックの整形外科部門で勤務させていただくことができ、「身体」の臨床についても一つの区切りをつけることができました。

また昨年は、早朝の水泳やトレーニングの成果が実り？三重国体の剣道成年女子栃木県代表として栃木県開催の関東ブロック大会に出場、関東ブロックを通過し、三重国体への切符をつかみました。惜しくも三重国体はコロナで中止となってしまいましたが、その後に行われた代替大会にも参加することができました。

選手としての視点とスポーツ臨床医としての視点の両方を持つ中で、「もっとスポーツの現場と医療や研究が結びつき、互いの情報交換がスムーズにできれば」と感じたことをきっかけに、華の大学院生となる決断をし、精進しているところです。

しかしながら、わたくしの毎日は、中学１年を筆頭に下は２歳まで、４人の子供たちとの格闘の日々でもあります。コロナ禍も手伝って、中学生は通学に公共機関を使えず（宇都宮で早朝水泳の後に）栃木市まで送迎＋毎朝お弁当作り、小学５年生は宿題をママと一緒でなければやらない病、小学１年生はランドセルの中身空っぽで帰宅事件頻発、２歳は保育園自粛の上いやいや期真っ盛り、ということで、活気あふれた日常に忙殺されておりますが、ふと頭の片隅に「こんな研究が現場に役立つかも」が思い浮かぶと、非常に幸せな気分になります。そして、週１回大学院に通学する日は「一人の時間 ✨」がやってきます。大学では一気にやらなければいけないことを瞬殺していかなければならないため、時間こそないのですが、完全に集中できる時間を楽しんでおります。

研究初心者の登竜門、倫理申請の書類に目をしょぼしょぼさせながら、現場・医療・研究の架け橋となるべく、楽しみながら精進しているところです。

東京2020大会にて

国体関東ブロック大会にて

近況報告

オピオイドを使いこなす、精神科をバックグラウンドとした医師として

公益財団法人がん研究会　有明病院　緩和治療科
佐　伯　吉　規

お久しぶりでございます。

さて、小生は平成 23 年 4 月にがん研有明病院の「緩和治療」科で働き始めました。就任したばかりの頃は聴診器も使えず画像も読めないという、自らの身体への対応能力不足を痛感する一方で、周囲のがん治療にまつわる先生方は、若くして臨床も研究も非常に熱心であり、彼らと自分を比べ、自信を喪失したこともございました。

しかしながら、終末期のがん患者のせん妄は非常にコントロールが難しく、そもそもハロペリドールやリスペリドンの効果を疑問視する研究まで出てくる始末（Agar MR.2017）。その中で、リエゾン精神科医として獨協医大にて活動をしていた時の臨床的なノウハウが役に立ち、小生が今の病院のスタッフから「せん妄屋」として認識していただけるきっかけとなりました。

また、がん治療の場面では向精神薬を別の目的で使用することが意外に多く、例えばオランザピンはすでに白金系抗がん剤の制吐作用としての保険適応がありますし、抗がん剤に伴う末梢神経障害へのデュロキセチンに関する研究は結構古くから存在します。ただ、抗がん剤投与中にデュロキセチンを用いることは、消化器症状を悪化させますし、トラマドールとの併用でセロトニン症候群のリスクが高まること等、精神科での診療経験がないとなかなか気づかれないものです。そういうひとつひとつのノウハウを共有すべく、他のがん治療のスタッフと積極的にコミュニケーションを図ることで、様々なオンコロジー面での知識を吸収できるようになりました。一念発起し、緩和医療学会認定医を取得。「オピオイドも使える精神科をバックグラウンドとした医師」として、がん研のみならず、特にサイコオンコロジー学会や緩和医療学会などで活躍されている先生方と一緒にお仕事をさせていただく機会も増えました。アラフィフを迎え、体力の低下をやや感じているのですが、zoom を使った「多施設抄読会」では非常に熱心な緩和医とのやりとりがなされ、なかなか休ませてくれそうにありません。

令和3年精神神経学会（京都）にて。サイコオンコロジーに関するシンポジウム
左より谷向仁先生（京都大学）、貞廣良一先生（国立がんセンター）、小生、井上真一郎先生（岡山大学）、北浦祐一先生（松下記念病院）

―― 近況報告 ――

「近況報告」

医療法人恒昭会　藍野花園病院
林　　有　希

獨協医科大学精神神経医学講座の皆様、また同門会の皆様方、ご無沙汰しております。獨協医科大学医学部に入学して以来、20年以上を過ごした栃木を、令和3年7月に離れ、大阪に戻りました。元々このタイミングで大阪に戻ることは考えていませんでしたが、母親の心臓の具合が悪くなったため、急遽実家である大阪に戻ることになりました。18歳まで住んでいた大阪の街は随分と変貌しており、現在住居を構えている吹田市も昔は田舎でしたが、ずいぶん人口が増え、都会に変貌していました。また栃木と違って自転車やバイクの数が凄く多く、車道を我が物顔で走っていて、いつも接触事故を起こさないかとヒヤヒヤしております。運転に関しては栃木とはだいぶ勝手が違う印象で今も苦労していますが、半年以上経って、ようやく大阪での生活にも少しは慣れてきたかなと思っています。あとUber Eatsは便利ですね。

現在私は藍野花園病院という単科の精神病院に勤務しています。今の病院で就労を開始した当初は、土地柄や考え方が異なる地域での患者さん方とのコミュニケーションに困惑することもありましたが、同僚の先生たちに支えられ何とか馴染むことが出来たのではないかと思っています。また関西では関東と違い、修正型電気けいれん療法を積極的に行うことがほとんどないらしく、統合失調症やうつ病の患者さんの薬物治療に難渋するたびに、電気けいれん療法ができたらなと考えてしまいます。

大阪駅周辺はグランフロント大阪など大きな商業ビルがいくつも建築されており、昔の大阪駅でよく遊んでいた自分としては隔世の感があります。COVID-19問題が終息した暁には、色々な場所に行ってみたいと思います。

今はCOVID-19の影響でオンラインでの学会開催が多く、現地に行くことが困難ですが、状況が改善された際には、精神科学会や忘年会などでお会いする機会もあると思います。

その際にはお声をかけていただけると幸いです。獨協医科大学の先生方、同門会の先生方におかれましては、今後とも御指導・御鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

―― 近況報告 ――

「近況報告」

医療法人社団　大栗内科
高　野　有美子

御無沙汰しております。高野有美子です。皆様お元気でいらっしゃいますでしょうか。
令和３年１月に大学外来から実家クリニックでの仕事が主体になり、皆さまとお会いすることがめっきりなくなりました。

新入医局員の方にもお会いできず、自己紹介もままならなかったので、簡単にお話させてください。私は平成 17 年獨協医科大学卒業、２年の臨床研修を経て、平成 19 年に精神神経科に入局しました。大学病院以外では、岡本台病院、森病院、室井病院にてそれぞれお世話になりました。

平成 28 年に双子を出産、産休育休を経て尾関裕二先生のご指導の下、平成 29 年に学位を取得し同時期に復職しました。時短勤務を経て令和３年１月から大栗内科の精神科・心療内科担当医師として常勤になり、現在に至ります。入院加療や大学病院受診を希望される方には、獨協医科大学病院精神科にもご紹介させて頂き、大変お世話になっております。この場をお借りして感謝申し上げます。

近況ということでは皆様も同じかと思いますが、当院も診療・検査医療機関に登録したことで感染対策、コロナの検査、ワクチン接種等で目まぐるしい日々でした。そんな中令和３年５月には電子カルテを導入しました。事務の負担が大きくなり、人員を増やす等の対応をしつつ、負担軽減と効率化のため院長の一声で導入に至りましたが、混乱したのも事実です。しかし導入したよかったことは多く、その一つにレセプトチェックにも深く関わるようになったことです。今まで大学外来、派遣先の病院でも看護師さんや事務員の方に見えないところでも大変お世話になっていたと今更ながら思います。

毎日の診療ですが、予約制で少しずつ人数が増えたこともあり、周りのスタッフに助けられながら楽しく診療しています。認知症サポート医や産業医の資格をとったことで地域包括支援センターや保健師さんからご紹介頂いたり、グンゼ物流センターの産業医になったりと新たな方との出会いもありました。

少しずつですが自身の診療も確立してきたような気がします。改めて精神医療というのは日々発見があり、奥深く興味が尽きない分野だと思います。私はあまり趣味というものがないのですが、現時点では仕事が趣味もかねているような感覚があります。これからも生まれ育った下野市で精神的につらい思いをしている人に少しでも役立てるよう、マイペースにやっていきたいなと思う日々です。

自宅マンションからの富士山です。東北新幹線も写っています。子供たちは電車が大好きで喜んでいます。

「第 56 回栃木県知事盃争奪ゴルフ大会 シニアの部」に優勝して

特定医療法人　氏家病院
松　村　　茂

ゴルフはコロナ禍において密になりにくく安全にプレー出来る屋外スポーツと注目されており、近年ゴルフ人口は増加している。経済産業省の統計によると、ゴルフ場、ゴルフ練習場の利用者数は確実に回復しているようだ。

獨協医科大学精神神経医学講座は下田教授もゴルフ大好きであるし、我々精神科医はデスクワークが中心の職業柄でもあるし、とりわけ若い先生方には健康維持と下田教授のご機嫌のためにも「ゴルフ」を始めていただきたいと切に願う。

ところで、日本国内には約 2300 のゴルフ場がある。これはアメリカ、カナダに次いで世界第 3 位の多さである（2019 年 R&A= 全英ゴルフ協会発表）。国土の大きさからすると日本のゴルフ場密度は極めて高い。その日本でも、栃木県は都道府県別ゴルフ場数ランキングで北海道、兵庫県、千葉県に次ぐ第 4 位であるが、人口 10 万人あたりのゴルフ場数では 7.75 ヵ所、偏差値 91.10 ！と堂々の 1 位なのである。

栃木県には「栃木県」と冠名の付くゴルフ大会が、知事盃争奪ゴルフ競技（一般･シニア等）、県ダブルス（一般・シニア等）、県シニア、県アマ、社会人アマなど毎年 10 以上の選手権大会が開催され、ゴルフの猛者達がしのぎを削っている。

私は幸運にも 2016 年に県シニアゴルフ選手権のタイトルをシニアルーキーである 55 歳時に自己ベストのラウンド 67 で獲ることができた。ここで説明するが､アマチュアゴルフの世界では、なぜか「シニア」の参加資格年齢が大会によって違い、県シニアは 55 歳から、知事盃シニアの部は 60 歳から参加可能となっている。

そこで、2021 年 2 月に還暦を迎えた私は、あるシニアゴルフ会でメダリスト（一番スコアがよかった人のこと）となりシード権を獲得して、9 月に足利 C.C 多幸コースで開催された知事盃シニアの部決勝に参戦ができることとなったわけである。

内心「県シニアもルーキーイヤーに獲ったし、今回ももしかして・・」と思いつつプレーには集中した。前半は 3 バーディ・2 ボギー・1 ダブルボギーの 37 で折り返し、後半はしぶとく寄せて 1 パットが 7 回の 1 バーディ・ノーボギーの 35 でまわり、72 でフィニッシュした。クラブハウスに戻り仲間達にスコアを伝えると「プレーオフだよ！」と言われ、ビックリした。しかもその相手が知事盃一般の部 3 勝など県大会 12 勝の歴戦の強者であった。その名前を聞いた瞬間､「横綱が相手、当たって砕けるしかない」と妙なプレッシャーは一切なかった。プレーオフ 1 ホール目でティーショットをバンカーに入れ、脱出したが左林を避けての残り 135 ヤード、9 番でインテンショナルフック（意図的に左に曲がっていく球を打つこと）をかけグリーンに乗せパーを拾い、相手は下りからのパットを 3 パットのボギーとして、幸運にも知事盃を手に取ることができた。

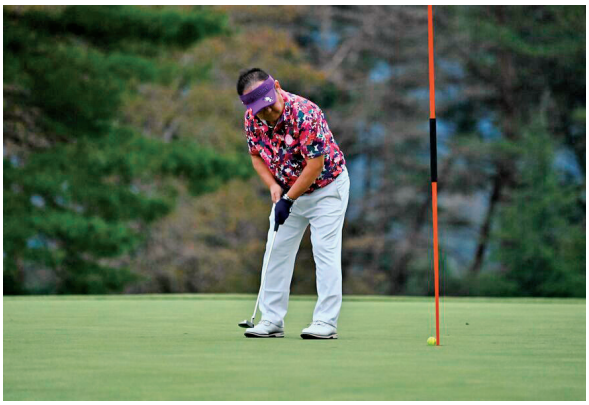
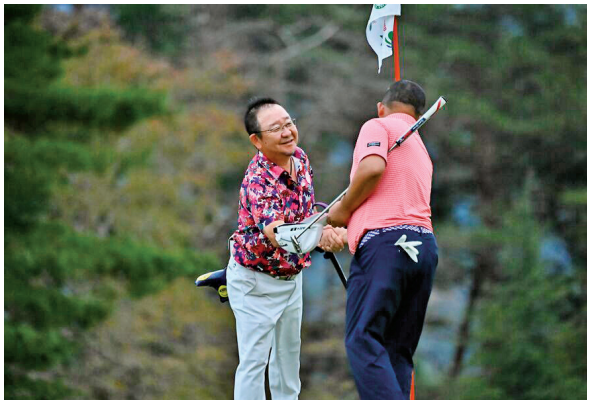
個人戦としてはこれが 2 度目のタイトルとなり、フロックではないことを証明できて嬉しかっ

た反面、これからは恥ずかしいゴルフ（スコアも含めて）はできない、と「勝って兜の緒を締めた」ところである。

その兜の緒を締めたからか、今年の４月に開催された県ダブルス（シニアの部）でも当院の門前にある薬局の薬剤師であるゴルフ仲間と参戦して、お互いのいい方のスコアを採用していくベストスコア方式にて２アンダーとし優勝することができた。

これまでに 2016 年県シニア、2017 年県ダブルス・一般の部、2021 年県知事盃争奪ゴルフ大会シニアの部、2022 年県ダブルス・シニアの部と４つも栃木県と冠名のつくタイトルを獲得できたことは私の誇りである。

私は仕事に極力支障が出ないように県の大会に参戦しているところであるが、いつも私の不在中に病院をサポートして頂いている当院精神科常勤先生方やスタッフのみなさんに、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。そして、これからも宜しくお願いいたします。

(C)下野新聞社　無断複製転載禁止。

知事盃ゴルフ

シニア

松村（さくら）PO制し初V

半田（宇都宮）2位、岡本（東京）3位

第56回県知事盃争奪ゴルフ大会(県ゴルフ連盟、県ゴルフ場協議会、下野新聞社主催）は29日、佐野市の足利CC多幸コース(6014ヤード、パー72)でシニアの部の決勝を行い、松村茂（さくら）がプレーオフを制して初優勝を飾った。

決勝には予選、ブロック大会を通過した146選手が参加。快晴、微風の絶好のコンディションの中、1打を争う白熱した試合を展開した。

松村は4バーディー、2ボギー、1ダブルボギーの72で半田裕一（宇都宮）と並びプレーオフに。18番パー5（465ヤード）を舞台にした1ホール目で、8メートルの下りラインを3パットした半田に対し、7メートルを2パットでパーにまとめた。

1打差で岡本隆志（東京）と塩田勝（福島）が並んだが、大会規定で岡本が3位に食い込んだ。連覇を狙った福田善一（さくら）は10オーバー82で59位に終わった。

次の決勝大会は10月6日、宇都宮市の宇都宮Cでグランドシニアの部を行う。

プレーオフ1ホール目でバンカーショットを放つ松村（さくら）＝足利CC多幸コース、橋本裕太撮影

ヒーロー　絶妙な技で強者破る　松村

プレーオフで破ったのは県知事盃一般の部3勝など県大会12勝の〝横綱〟半田裕一。松村茂（さくら）は「ああ、半田さんが相手なんだ、というのが正直な気持ちだった。雲の上の人に勝てたなんて」と気持ち良さそうに汗を拭った。

18番パー5を舞台にした1ホール目。1打目がバンカーにつかまり、130ヤードの第3打はピンに向かって木が邪魔をする状況だった。ラフとはいえ50ヤードの第3打を残した半田に対して劣勢。しかし、9番アイアンで「フックをかけた」というショットは木をすり抜けて7メートルにオン。2パットで勝負を決めた。

前半アウトは8番パー4でバンカーにつかまり、3パットでダブルボギーとしたが37にまとめた。難しいとされるインは16番パー4でグリーンを外したものの33ヤードを絶妙のアプローチで切り抜け、最終18番も8メートルのフックラインを沈め、それぞれパーでしのぎ35。「あの2ホールが大きかった」と解説した。

55歳で出た5年前の県シニア選手権は3打差をつけて初優勝。今回は60歳と「ともに大会規定のデビュー戦。区切りの年に勝てたのもうれしい」と白い歯を見せる。

精神科医師。大学時代にゴルフ部に入り「徹底的に汗を流した」。多忙で無理を押して出場し、「職員の協力がなければ出られなかった。それをぜひ書いてください。感謝です」と強調した。

目標は県レベルの大会での複数回優勝とエージシュート。「これでフロックと言われません」と笑った。（井上孝男）

第3打のミス悔やむ

○…第44回大会（2009年）一般男子の部で、東北福祉大の秋本久成（宇都宮）との3ホールに及ぶプレーオフを制した半田裕一（宇都宮）だったが、プレーオフ1ホール目であっさり敗退した。

第3打はラフから。50ヤードを58度のウエッジでピン上8メートルへつけた。しかし「止まらないことは分かっていた」とバーディーパットはカップをすり抜け5メートルオーバー。「（第3打を）あそこに乗せては駄目」と説明した。

一般男子とシニアの両部門を制しているのはわずか3人。4人目に王手をかけただけに「今日はコースマネジメントが悪かった。それよりもシニアには縁がないかも」と肩を落とした。

岡本隆志

半田裕一

高速グリーンに苦戦

○…6014ヤードは35回目を迎えたシニアの部で最短の設定。1998年の第33回大会のサイプレスCC（6056ヤード）より42ヤード短くなったが、選手は高速グリーンに苦しみスコアは伸び悩んだ。

特に2957ヤードと距離はレディース並みのインで牙をむいた。一般男子とシニアの両部門を制している歌川康広（宇都宮）は「切れそうで切れない。下りは超高速。（スティンプメーターで）12フィートぐらいに感じた」と驚きの表情。一般男子とキング・オブ・チャンピオン覇者の武田幸雄（大田原）も「確かに速かった。下りは止まらない。いいグリーンだった」と評価していた。

さくら・福田善一（連覇を狙うが10オーバー82で59位）「冠の重さがのしかかっていた。パターがカップをのぞくが入らなかった。肩の荷も下りたので、一から出直しです」

日光・柏木豪（県アマなど県大会3勝。脊髄を痛めて1年半ぶりの県大会出場ながら77で16位）「手術を受けて約1年。2か月半前からクラブを握った。77は上出来。ゴルフができる喜びをかみしめている」

【シニアの部決勝大会】
（6014ヤード、パー72）

				グロス	アウト、イン
0	1	松村　茂	さくら	72	(37、35)
	2	半田　裕一	宇都宮	72	(37、35)
＋1	3	岡本　隆志	東京	73	(34、39)
	4	塩田　勝	福島	73	(34、39)
＋2	5	和光　利一	宇都宮	74	(37、37)
＋3	6	小林　且雄	埼玉	75	(39、36)
	7	橋本　芳之	小山	75	(36、39)
＋4	8	布施　政勝	東京	76	(39、37)
	9	坂内　義之	埼玉	76	(38、38)
	10	舘野　章	下野	76	(38、38)
	11	上村　広行	足利	76	(38、38)
	12	橋本　和男	埼玉	76	(36、40)
＋5	13	日下部浩寿	〃	77	(41、36)
	14	歌川　康広	宇都宮	77	(40、37)
	15	鈴木　晃	さくら	77	(39、38)
	16	柏木　豪	日光	77	(38、39)
	17	舟岡　誠	那須塩原	77	(38、39)
	18	武田　幸雄	大田原	77	(35、42)
＋6	19	坂井　貞夫	宇都宮	78	(42、36)
	20	鈴木　敏夫	栃木	78	(39、39)
	21	碇　秀夫	宇都宮	78	(39、39)
	22	三中　春彦	日光	78	(39、39)
	23	西川　忠克	小山	78	(38、40)
	24	磯　誠一	那須塩原	78	(38、40)
	25	大久保光明	真岡	78	(38、40)
	26	添田　修司	宇都宮	78	(37、41)
＋7	27	渡辺　専一	茨城	79	(42、37)
	28	平山　圭三	那須塩原	79	(42、37)
	29	高久　正美	栃木	79	(40、39)
	30	川田　章	足利	79	(40、39)
	31	林　芙左一	宇都宮	79	(40、39)
	32	吉橋　雅之	鹿沼	79	(38、41)
＋8	33	大島　洋司	日光	80	(41、39)
	34	大塚　俊男	宇都宮	80	(40、40)
	35	大橋　新一	那須烏山	80	(40、40)
	36	和泉　一夫	足利	80	(40、40)
	37	坂本　茂	鹿沼	80	(40、40)
	38	村上　勝	下野	80	(39、41)
	39	阿部　豊	足利	80	(39、41)
	40	広澤　伸吾	佐野	80	(39、41)
	41	平野　和夫	埼玉	80	(38、42)
	42	鈴木　英利	宇都宮	80	(38、42)
	43	布施　博	〃	80	(38、42)
	44	遠藤　岳志	鹿沼	80	(37、43)
＋9	45	戸祭　康生	芳賀	81	(42、39)
	46	野口　政夫	佐野	81	(42、39)
	47	半田　容一	宇都宮	81	(41、40)
	48	中里正日出	大田原	81	(40、41)
	49	村山　周一	茨城	81	(40、41)
	50	七海今朝義	那須烏山	81	(39、42)
	51	福田　正弘	宇都宮	81	(39、42)
	52	園田　俊也	〃	81	(39、42)
＋10	53	塩野目規雄	那須烏山	82	(44、38)
	54	門間　貞和	埼玉	82	(43、39)
	55	塩野目満幸	那須烏山	82	(43、39)
	56	久我　正夫	栃木	82	(42、40)
	57	市村　宗衛	真岡	82	(42、40)
	58	斎藤　唯夫	宇都宮	82	(40、42)
	59	福田　善一	さくら	82	(40、42)
	60	永井　孝之	高根沢	82	(40、42)
	61	矢島　博行	栃木	82	(39、43)
＋11	62	板橋　康雄	壬生	83	(43、40)
	63	高久　弘	那須	83	(43、40)
	64	宮川　実	下野	83	(42、41)
	65	渡辺　健雄	大田原	83	(41、42)
	66	江連　秀樹	宇都宮	83	(41、42)
	67	若林　由則	〃	83	(40、43)
	68	青木　秀樹	小山	83	(40、43)
	69	片柳　勇	〃	83	(40、43)
	70	遠藤　斌	鹿沼	83	(39、44)

※同スコア順位は大会規定による。

(C)下野新聞社　無断複製転載禁止。

松村・小野崎組 シニア初V
鈴木・角田組 7度目女王

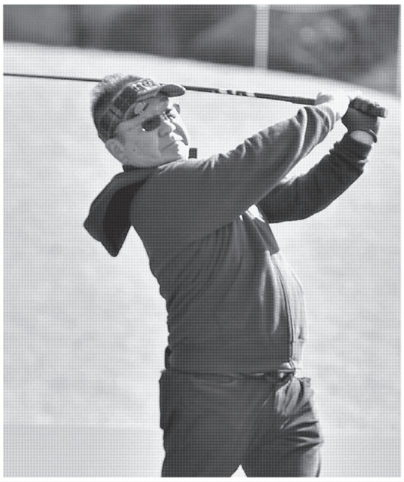
ゴルフ 県ダブルス選手権

第11回県ダブルスゴルフ選手権大会（下野新聞社主催、県ゴルフ連盟、県ゴルフ場協議会後援）は19日、宇都宮市のレイクランドCC（パー72）でシニアの部（6515ヤード）と女子の部（5860ヤード）を行い、シニアの部は初出場の松村茂・小野崎悟組（さくら・矢板）が2アンダー70で初優勝。女子の部も鈴木郁子・角田里子組（高根沢・宇都宮）が2アンダー70で3大会連続7度目の優勝を果たした。

小野崎悟

シニア61組122選手、女子14組28選手が出場し快晴無風の好コンディションの中、白熱した試合を展開した。シニアの松村・小野崎組は前半のインを2アンダー34で折り返し、後半アウトも2バーディー2ボギーの36でまとめた。女子の鈴木・角田組は前半のインで単独トップの2アンダー34。後半もリードを守り切った。

シニア、女子ともに2、3位は同スコアだったが大会規定でシニアは渡辺重夫・富田昇組（宇都宮・栃木）、女子は小森幸恵・上野千鶴組（矢板・宇都宮）が2位に入った。


10番でティーショットを放つシニアの部優勝の松村＝レイクランドCC、湯田大士撮影

気負わず回り栄冠

○…シニアは松村茂・小野崎悟組（さくら・矢板）は初出場初優勝。昨年の知事盃シニア王者の松村は「楽しみにしていた。気負わずに回れた結果」と笑った。

前半インの10番パー4でチップインバーディーを決め勢いづいた。松村が前半3バーディーを稼いで34でターン。後半アウトは2、3番で連続ボギーをたたいたが「ここからがスタート」と切り替え4番パー5でバーディー、8番パー3もバーディーパットを小野崎が見事に沈めた。

これまで男子の部ではそれぞれ別のペアで出場しており、還暦を迎えて初めて一緒にエントリーした「即席」ペア。2人の脳裏にはすでに〝連覇〟の2文字がちらついているようだった。

助け合い王座死守

○…連覇で大会7勝目を飾り、女王の強さを見せた鈴木郁子・角田里子組（高根沢・宇都宮）。鈴木は「今までで1番苦しかった。最後までドラマがあった」と安堵の表情を浮かべた。

前半インは単独トップの2アンダー34。しかし後半アウトは2バーディー2ボギーと思うように伸びなかった。最終9番は鈴木がバンカーに苦戦し、頼みの綱は角田のパーパット。「ここで外せば負ける」。緊張感の中、2メートルの下りフックラインを見事に沈めた。

結果は2位と2打差だったが「不安だった。助け合えた結果」と口をそろえる。「ダブルスは楽しいね」と20年来のベテランペアは笑い合った。

シニアの部2位の富田（左）渡辺組

シニアの部3位の上野（左）市村組

女子の部優勝の鈴木（左）角田組

女子の部2位の小森（右）上野組

女子の部3位の水谷（左）林組

10位に沈み、連覇逃す

○…シニアの田村次郎・西川忠克組（宮城・小山）は連覇を逃し「パーオン三つでは…」と口をそろえて悔しがった。グリーンにうまく寄せられず「チャンスをつくれなかった」と田村。前日の練習ラウンドで4バーディーと好調だったという西川も一転、「想像できないようなスピードと曲がり方だった」という下りのラインを読み切れなかった。

前回は5アンダー67の好スコアで頂点に立ったが、今回は2オーバー74の10位に沈み苦笑い。次回大会での王座奪還を期し、「頑張ります」と雪辱を誓った。

宇都宮・渡辺重夫（栃木・富田昇と組み、シニアで1打差の2位）「5番で40センチぐらいのパットを外さなければ…。2人とも調子も良く、パターの名手の富田が2バーディー、自分もパーで回ってうまくかみ合った」

真岡・上野好（真岡・市村宗衛と組み、前半アウトで33をマークするなど初出場シニア3位）「スタートホールからバーディーでうまくいったと思ったら、後半のインが38で通算1アンダーと帳尻が合ってしまった。来年は優勝を目指します」

矢板・小森幸恵（宇都宮・上野千鶴と組み72で女子2位）「欲を言えばもう少しいきたかったが、目標のパープレーは達成できた。ミスもカバーし合えたし、出場3年目でようやくかみ合ったゴルフができた」

宇都宮・林美由樹（栃木・水谷朱実と組み72の女子3位）「総じてショットが良かった。悔しかったのは最終9番のボギー。セカンドがオーバーしてしまい、詰めの甘さを感じた。何よりこのペアで初めて出場して楽しかった」

【県ダブルスゴルフ選手権】

【シニアの部】（6515ヤード、パー72）

		氏名	所属	グロス	アウト、イン
−2	①	松村　茂	さくら	70	36、34
		小野崎　悟	矢板		
−1	②	渡辺　重夫	宇都宮	71	35、36
		富田　昇	栃木		
	③	市村　宗衛	真岡	71	33、38
		上野　好	〃		
0	④	広澤　伸吾	佐野	72	36、36
		橋本　和男	埼玉		
	⑤	小池　正造	鹿沼	72	36、36
		山崎　唯普	〃		
	⑥	大垣　春男	宇都宮	72	35、37
		高実子　武	〃		
+1	⑦	阿久津　英男	日光	73	39、34
		大森　政男	那須		
	⑧	添田　修司	宇都宮	73	36、37
		大貫　敬司	〃		
+2	⑨	半田　裕一	〃	74	39、35
		和泉　一夫	足利		
	⑩	田村　次郎	宮城	74	37、37
		西川　忠克	小山		
	⑪	柳　修	真岡	74	35、39
		荒川　勝	野木		
+3	⑫	村上　勝	下野	75	38、37
		山形　清作	宇都宮		
	⑬	江口　隆	那須烏山	75	37、38
		七海今朝義	〃		
	⑭	大橋　新一	〃	75	37、38
		塩野目満幸	〃		
	⑮	舟岡　誠	那須塩原	75	37、38
		関口　健一	〃		
	⑯	和光　利一	宇都宮	75	34、41
		遠藤　岳志	鹿沼		
+4	⑰	大久保光明	真岡	76	38、38
		林　正和	益子		
	⑱	石島　英明	下野	76	37、39
		伊藤　亮	宇都宮		
	⑲	小林　博樹	〃	76	37、39
		見山　寛平	〃		
	⑳	大森　正美	〃	76	37、39
		谷田部孝志	〃		
+5	㉑	舘野　章	下野	77	40、37
		高安　伸也	埼玉		
	㉒	平山　圭三	那須塩原	77	38、39
		増子　秀一	那須		
	㉓	大関　強	真岡	77	38、39
		宮川　実	〃		
	㉔	上村　広行	足利	77	38、39
		古家　健治	小山		
	㉕	林　美左一	宇都宮	77	38、39
		辻　西郎	埼玉		
	㉖	荒井　孝行	那珂川	77	38、39
		古口　昭雄	〃		
	㉗	福田　善一	さくら	77	37、40
		塩澤　修次	那須烏山		

【女子の部】（5860ヤード、パー72）

		氏名	所属	グロス	アウト、イン
−2	①	鈴木　郁子	高根沢	70	36、34
		角田　里子	宇都宮		
0	②	小森　幸恵	矢板	72	36、36
		上野　千鶴	宇都宮		
	③	水谷　朱実	栃木	72	35、37
		林　美由樹	宇都宮		
+2	④	藤平　瞳	真岡	74	37、37
		佐藤　香織	佐野		
+4	⑤	佐藤　香織	那須塩原	76	41、35
		船越　実幸	上三川		
	⑥	戸澤　聖美	宇都宮	76	38、38
		竹内由美子	埼玉		
+5	⑦	八木　珠恵	〃	77	40、37
		米田　康代	群馬		
+7	⑧	石原美々子	足利	79	38、41
		松本　友恵	那須		
+8	⑨	前沢　美幸	宇都宮	80	40、40
		阿相ひとみ	那須烏山		
+9	⑩	荻原由美子	群馬	81	40、41
		呉　鍾淑	〃		
	⑪	高野　裕子	鹿沼	81	39、42
		猪狩奈央美	佐野		
	⑫	田村麻衣子	小山	81	39、42
		河合　恭子	埼玉		
+13	⑬	秋山　ミイ	宇都宮	85	43、42
		畠井千代子	〃		
+17	⑭	須田　慶子	小山	89	47、42
		橋本　順子	宇都宮		

研究紹介

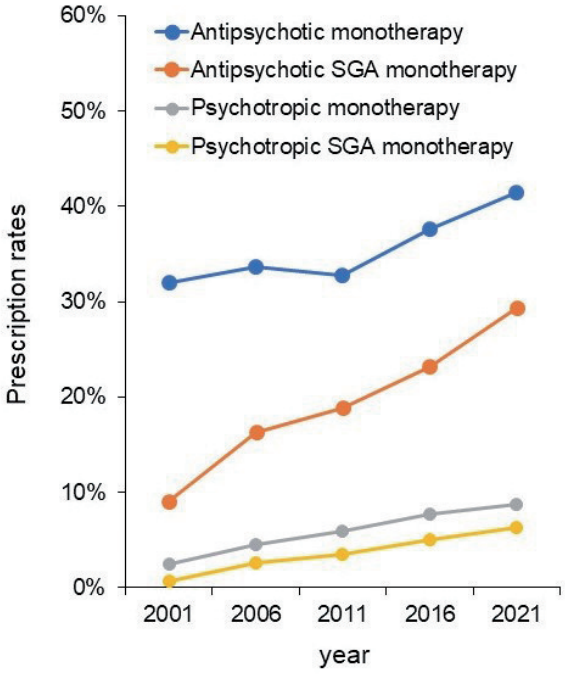
20 年以上にわたる統合失調症同一患者への処方傾向：栃木県の動向を中心として

獨協医科大学精神神経医学講座
古　郡　規　雄

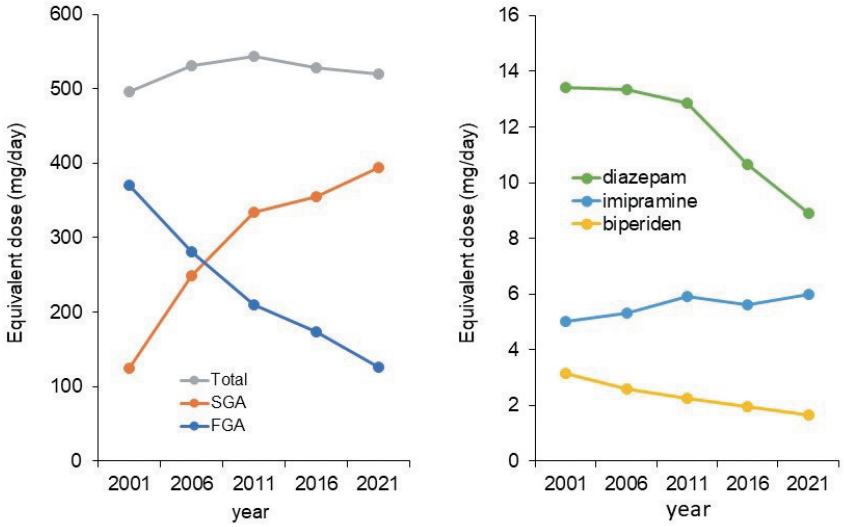
【背景】近年の薬物処方調査データでは、第二世代抗精神病薬（SGA）単剤治療を受ける患者の割合が増加しているが、長期にわたって同一患者を分析した研究はない。そこで本研究では、20 年分のデータがある統合失調症患者をレトロスペクティブに評価し、同じ患者における薬物治療がこの 20 年間で変化しているかどうかを確認することにした。

【方法】本研究は 2021 年 4 月に開始し、日本国内の 15 の精神科病院を対象に実施した。具体的には獨協医科大学病院と 11 の関連病院（とちぎ TMC メディカルセンターしもつが、栃木県立岡本台病院、室井病院、佐藤病院、鹿沼病院、朝日病院、滝澤病院、菊池病院、青木病院、埼玉江南病院、不動ヶ丘病院）と青森県内の 3 病院（黒石あけぼの病院、弘前愛成会病院、青南病院）であった。20 年間同じ病院で治療を受けた統合失調症患者を対象に、2016 年、2011 年、2006 年、2001 年（つまり 5 年ごと）の全処方箋をレトロスペクティブに調査した。なお、本研究は獨協医科大学病院臨床研究審査委員会で承認された後に行った。

【結果】2021 年に調査した患者 716 名の平均年齢は 61.7 歳、女性は 49.0％であった。2021 年の抗精神病薬単剤使用率は 45.4％であり、20 年間で増加傾向にあった（右図）。2021 年の SGA 使用率は 70.5％であり、これらの処方率は 20 年前の 28.9％から増加傾向を示した。一方、2021 年の SGA 単剤使用率は 29.3％にとどまったが、20 年前の 9.1％から増加傾向にある（右図）。単剤治療率は若干の増加を認めるが、2001 年には FGA の比率が高かったの対して、2021 年には SGA の比率が高くなっていた。2021 年の抗コリン薬、抗うつ薬、抗不安薬・睡眠薬、気分安定薬の併用率は、過去 20 年間で減少傾向、横ばい、減少傾向、増加傾向であった。



抗精神病薬の投与量（CP 換算）に関しては、過去 20 年間で投与量に変化はないものの、SGA は著明な増加傾向、FGA は著明な減少傾向（左下図）が認められた。一方併用薬の抗うつ薬の投与量（イミプラミン換算量）は不変であるが、抗コリン（ビペリデン換算量）やベンゾジアゼピン系薬（ジアゼパム換算量）の投与量は減少傾向にあった（右下図）。



【考察】本研究は、処方された抗精神病薬について、同じ統合失調症患者を 20 年間追跡調査した世界で初めての研究である。この研究の結果、時間の経過とともに FGA から SGA への置換がゆっくりと、しかし着実に進行していることが示された。一方、抗精神病薬の投与量に変化はなかった。また、FGA 単剤処方の割合が減少したのに対し、SGA 単剤処方の割合は徐々に増加したが、その割合は半分以下であった。本研究では新規患者を取り込んでおらず、調査対象者は SGA を服用する可能性が低いにもかかわらず、2016 年以降 SGA 処方が主流となったのは、ガイドラインなどの啓発活動が功を奏している可能性がある。特に、多剤併用療法が好まれる保守的な日本においても、この結果は世界標準に向かっており、患者の QOL が改善されている可能性が高い。

【結論】本研究の結果から、同一患者であっても、時間の経過とともに SGA から第一世代抗精神病薬（FGA）への置換が緩やかに、しかし確実に進行していることが示された。

【謝辞】最後に、本研究にご協力いただいた関連病院のみなさま深謝いたします。

—— 関連病院紹介 ——

菊池病院

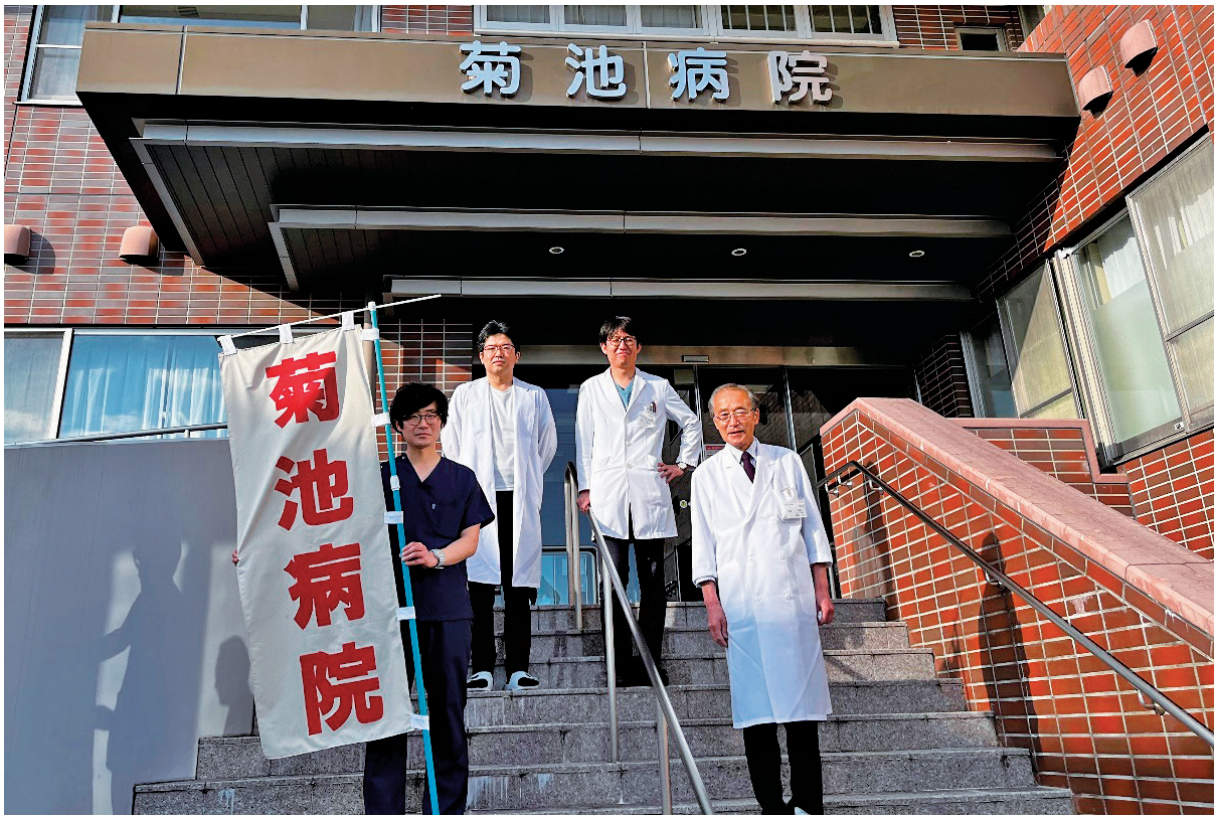
医療法人桂慈会　菊池病院　副院長
川　俣　安　史

菊池病院は昭和 34 年 9 月 1 日芳賀郡唯一の精神病院として益子町に設立認可されました。当時の規模は病床数 53 床、職員は医師 3 名、歯科医師 1 名、事務員 3 名、看護婦 7 名、看護人 3 名、栄養士 2 名、賄婦 3 名、雑役婦 1 名、運転士 1 名の 26 名で開業したと記録されています。その後幾多の変遷を経て、精神科病棟 240 床、内科療養病棟 33 床に増床され現在に至っています。初代院長菊池実の元で運営され、昭和 59 年 1 月 4 日に菊池正之副院長が赴任。当時の記録で『菊池正之先生は、昭和 52 年帝京大学医学部卒業後、昭和 52 年 7 月から昭和 58 年 12 月まで帝京大学付属病院に於て研鑽を積まれ昭和 58 年 6 月には医学博士の学位を取得された新進気鋭の青年医師で、当病院に於ける今後の活躍が大いに期待される訳である。』と残されています。昭和 60 年 9 月 18 日、初代院長菊池実が名誉院長になり、副院長菊池正之が院長に就任しました。現在の医局は精神科医師常勤 3 名非常勤 1 名、内科医師常勤 1 名非常勤 2 名および当直非常勤医で運営しています。

令和 2 年 10 月から赴任した私の私見にすぎませんが、当院は①認知症患者の入院依頼が多い②芳賀郡以外からの入院依頼も多い、という特徴があります。これからも認知症患者の相談件数は増加することが予想され、地域のニーズに応えるため邁進していく必要を肌で感じています。最近では獨協医科大学病院と連携して臨床研究に協力する試みを始めました。

獨協医科大学病院精神神経科医局および脳神経内科医局からは例年医師を派遣して頂いております。菊池正之院長に代わり、この場を借りて御礼申し上げます。

『SLと青空と菊池病院』
（矢頭：菊池病院）
：SLが見える精神病院は
菊池病院が全国唯一？？



『菊池病院精神科』
：菊池昂太先生（左前列）、のぼり旗を用いて皆を鼓舞している？？

『いつかのゴルフコンペ』
：菊池正之院長（前列中央）と下田教授（前列右：当時は助教授）と菊池病院スタッフ

—— 関連病院紹介 ——

埼玉江南病院

医療法人仁和会　埼玉江南病院
石　川　高　明

当院は 1960 年（昭和 35 年）に 46 床で開設し、病棟の新築と増設を経て、現在 236 床になっています。現院長は高橋三郎先生です。高橋先生は滋賀医科大学精神医学講座の教授を退任された平成 8 年から当院の院長に就任されました。現在では日常的に使用されるようになったアメリカ精神医学会の診断基準である DSM（Diagnostic and Statistical Manual of Mental disorders）の翻訳を長年手がけられ、日本でも広く使用されるようになる契機となった DSM- Ⅲから最新の DSM-5 までの翻訳に携わったことで知られていますが、大学時代には長年精神神経薬理学の研究指導に携わってこられました。当院は精神科専門医制度の研修施設になっており、高橋三郎先生と私の 2 名が指導医として勤務しています。これまでに獨協医科大学精神神経医学講座の医師 2 名が専門医を取得するための研修を当院で行いました。令和 3 年度の入院患者数は 132 名（措置入院：14 名／医療保護入院：85 名／任意入院：33 名）でありました。埼玉県の救急輪番体制に参加し、措置入院を含めた精神科救急も行なっています。外来は毎月約 1,000 名の方が受診しています。看護スタッフ 83 名が勤務しており、様々な医療ニーズに対応できる体制を整えるように認定臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士が尽力しています。埼玉県北地域の中核病院として今後も病院スタッフ一同、力を合わせて努力していきたいと思います。

当院のある熊谷市を簡単に紹介させていただきます。埼玉県の北部に位置する熊谷市は日本有数の暑い街として知られていますが、国内最高気温 41.1 度の記録を持っています。数年前に話題になった埼玉県を痛烈に「ディスる」映画、「翔んで埼玉」をご存知でしょうか。劇中に「熊谷は群馬なんだよ！」というセリフが出てくるぐらい地理的・文化的に群馬県に近い街です。昔からラグビーが盛んな街で、2019 年にラグビー W 杯が日本で開催されましたが、会場の一つとなった熊谷ラグビー場は現在、埼玉パナソニックワイルドナイツの本拠地になっています。熊谷市近辺にお越しの際は是非とも当院にもお立ち寄りください。

ラグビー日本代表vs南アフリカ代表（2019年,熊谷ラグビー場）

埼玉江南病院外観

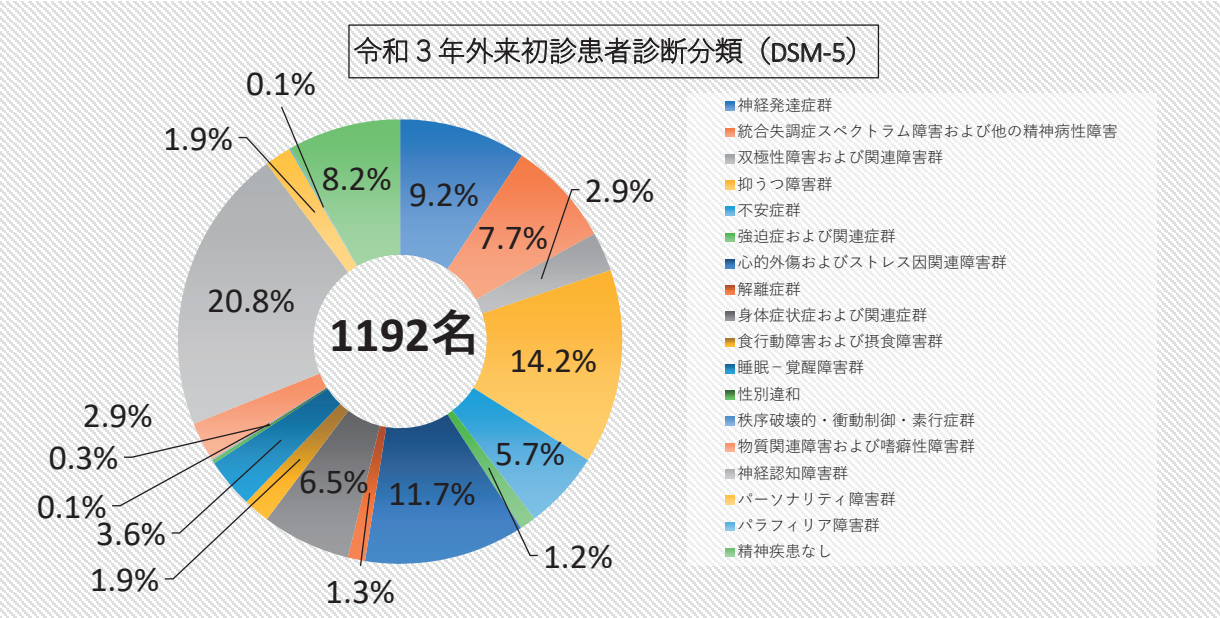
高橋三郎院長

令和３年　外来統計

獨協医科大学病院精神神経科　外来医長
岡　安　寛　明

各関連病院の先生方には日頃より、大変お世話になっております。令和３年の外来患者統計について報告させていただきます。令和３年１月～12月までの新患患者数1,192名（平均年齢51.5 ± 23.9歳、男性675名、女性517名）、総再来患者数延べ30,954名（1カ月平均2,579.5名）となり、昨年度と比べて、新患患者数、再診患者数ともに増加することができました。これも外来を担当していただいている諸先生方の日頃の努力と、各関連病院の先生方の御協力・御指導のおかげと思っております。新患患者の内訳は、例年通り、神経認知障害群が20.8%と多くを占めており、次いで抑うつ障害群となっております。一方で、統合失調症スペクトラムおよび他の精神病性障害群は減少し、適応障害に代表される心的外傷およびストレス因関連障害群と神経発達症群の割合が増加しております。これは、児童思春期外来（第1、第３水曜日）を開設したことにより、当院でも18歳未満の新患患者が年間90名と増加している（令和２年：48名）ことが関連すると考えられます。また、院内他科からの新患診察依頼数は、513件で全新患患者のうち43.0%にあたります。

当科外来診療では、精神科疾患全般について診療を行っております。認知症疾患医療センターとの兼務で、血液・画像検査、神経心理学的検査を行い、健常高齢者の物忘れと認知症との鑑別をして、認知症と診断された場合には、適切な治療や支援を提供しております。また、リエゾン・コンサルテーションにも積極的に取り組み、他の診療科に入院・通院中の患者さんに生じたせん妄などの精神症状についての相談にもフレキシブルに対応します。認知行動療法専門外来では、うつ病や不安障害などの患者さんに対して精神科医が認知行動療法を行っております。診療内容に関する詳細は当講座のホームページ（https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/psy/）を参照してください。その他にも流通規制が厳格化されたメチルフェニデート塩酸塩徐放錠を必要とする注意欠如・多動症患者への対応や、クロザピン導入後、継続処方が必要な治療抵抗性統合失調症患者への対応も行っております。また、自殺企図症例などの救急患者に対しても、救命救急センターやソーシャルワーカーと連携した診療を行っております。このように日々変化する情勢や多様なニーズに対応し、幅広い精神医学的治療を提供できるよう医局員一同、精一杯努めてまいりますので、同門の先生方にはこれまで同様に御支援の程、よろしくお願い申し上げます。


令和３年外来初診患者診断分類（DSM-5）
1192名
9.2%
7.7%
2.9%
14.2%
5.7%
1.2%
1.3%
11.7%
6.5%
3.6%
1.9%
0.1%
0.3%
2.9%
20.8%
1.9%
0.1%
8.2%
神経発達症群
統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害
双極性障害および関連障害群
抑うつ障害群
不安症群
強迫症および関連症群
心的外傷およびストレス因関連障害群
解離症群
身体症状症および関連症群
食行動障害および摂食障害群
睡眠－覚醒障害群
性別違和
秩序破壊的・衝動制御・素行症群
物質関連障害および嗜癖性障害群
神経認知障害群
パーソナリティ障害群
パラフィリア障害群
精神疾患なし

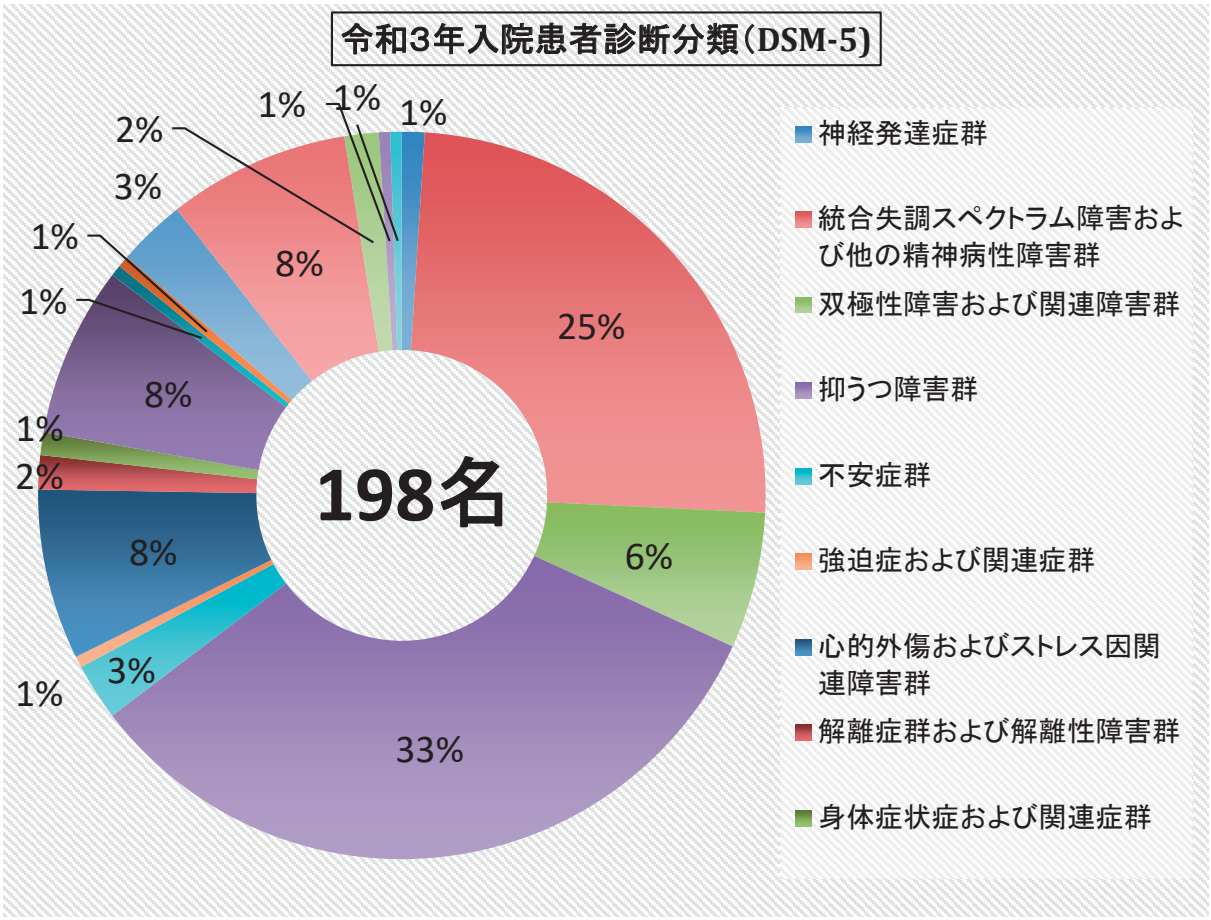
令和３年　入院統計

獨協医科大学病院精神神経科　病棟医長
篠　﨑　將　貴

令和３年１月～ 12 月の入院患者統計について報告させていただきます。

入院患者総数は 198 名（男性 65 名、女性 133 名、平均年齢 56.0 ± 20.7 歳）でした、代表的な疾患の比率をみますと、気分障害圏が 37.9%（前年度 40.9%）、統合失調症圏が 23.2%（前年度 27.4%）と前年度の統計と概ね同様の傾向でありました。当院は総合病院であることから、身体疾患を合併している症例も多く、必要に応じて当該診療科と連携を図り、身体･精神両面にわたった総合的な治療を行っております。具体例として、自殺企図症例などの救急患者に対して、救命救急センターと連携して診療にあたっています。必要があれば、当科での入院治療を継続しております。令和２年４月から、自殺企図者の再企図予防のために、日本自殺予防学会の所定の研修を受講した精神科医、看護師、精神保健福祉士による救急患者精神科継続支援を開始し、令和２年度に 69 人、令和３年度に 50 人の介入を行っています。一般身体科病棟への入院患者の精神症状に対して、精神科リエゾンチームによる回診を行い、主科と連携して診療にあたり、令和２年度には 323 人、令和３年度には 629 人の介入を行うなど、リエゾン・コンサルテーションにも積極的に取り組んでいます。認知症患者に対する専門的な支援を行うためのオレンジチームも活動しており、院内他科との連携、多職種連携を積極的に進め、令和２年度に 1123 人、令和３年度に 1674 人の介入を行っています。また、治療抵抗性統合失調症に対して、血液・腫瘍内科と連携し、クロザピン治療の導入を行っており、令和３年１月～ 12 月は新規導入３人の入院治療を行いました。さらに当院は平成 29 年３月に、日本総合病院精神医学会の電気けいれん療法（ECT）研修施設として認定されており、麻酔科医の協力の下、ECT を積極的に実施しております。令和３年は計 27 名に対し、延べ 254 件施行しました。また、令和３年２月に、NeuroStar TMS 治療装置を病棟に設置し、令和３年４月から反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）療法の開始しており、令和３年４月～令和４年３月までに計２名に対し述べ 51 件施行しました。このように身体合併症があり身体科との連携が必要な症例や、ECT、rTMS 療法が適応となる症例、血液内科と連携しながらクロザピンによる治療が必要な症例は大学病院精神科が対応していくべきであり、今後も積極的に対応していきたいと考えております。当院での治療が望ましいとご判断頂きました症例は、是非ご紹介いただけますようお願い申し上げます。一方で、当院の精神科病棟は開放病棟であり、著しい興奮状態にある急性期の症例を常時受け入れられる環境でありません。また、当院での急性期治療が終了した後に長期的な継続治療が必要な症例につきまして、当院から転院依頼をさせていただく場合があり、その際には各関連病院の先生方には是非に御協力をいただけると幸いです。

大学病院精神科の特色を生かしつつ地域の精神科病院の要望に応えることが出来るように当院スタッフ力を合わせて尽力する所存です。諸先生方には今後も忌憚のないご意見を今後ともよろしくお願い申し上げます。


令和3年入院患者診断分類（DSM-5）
198名
25%
6%
33%
3%
1%
8%
1%
2%
8%
1%
1%
3%
2%
1%
1%
1%
神経発達症群
統合失調スペクトラム障害および他の精神病性障害群
双極性障害および関連障害群
抑うつ障害群
不安症群
強迫症および関連症群
心的外傷およびストレス因関連障害群
解離症群および解離性障害群
身体症状症および関連症群

—— 教室便り ——

人事往来

■ 2022 年度

眞銅佑之介　レジデントとして採用（2022 年 5 月 1 日）
長谷　達　学内助教（専攻医）として採用（2022 年 4 月 1 日）
篠﨑將貴　滝澤病院へ転任（2022 年 4 月 1 日）
前原　稜　室井病院へ転任（2022 年 4 月 1 日）
光野真登　栃木県立岡本台病院へ転任（2022 年 4 月 1 日）
菊池昂太　栃木県立岡本台病院より復帰（2022 年 4 月 1 日）
大和田　環　滝澤病院より復帰（2022 年 4 月 1 日）
佐藤　葵　室井病院より復帰（2022 年 4 月 1 日）

2022 年 4 月現在の講座スタッフ

主任教授　下田和孝
准　教　授　古郡規雄（医局長）
学内准教授　菅原典夫（保健センター長兼任）
学内講師　岡安寛明（外来医長）
学内助教　長谷川千絵、佐々木太郎、菊池昂太、佐藤由英（病棟医長）、大和田　環
佐藤　葵（産休中）、小野崎弥生（産休中）、長谷　達
レジデント　吉田良太、鈴木桜子（育休中）、眞銅佑之介
大学院生（社会人大学院生）
徳満敬大、横山沙安也、田﨑みなみ、佐藤　葵
臨床心理士　小西　徹、新井怜子、袴田リナ
医局秘書　大橋留生

学内講師(派遣)　小杉真一（大澤台病院）、佐伯吉規（がん研有明病院）、石川高明（埼玉江南病院）
助教(派遣)　鈴木武士（氏家病院）、上田幹人（滋賀里病院・大津心療内科）
学内助教(定員外)　北原亜加利、佐々木はづき、横山沙安也
学内助教(派遣)　室井宏文（室井病院）、鮎瀬　武（菊池病院）、川俣安史（菊池病院）
篠﨑隆央（鹿沼病院）、加藤征樹（さくら・ら心療内科）
藤平明広（栃木県立がんセンター）、竹内祥貴（栃木県立岡本台病院）
白木亮祐（栃木県立岡本台病院）、北林佳晃（栃木県立岡本台病院）
横山宜史（埼玉江南病院）、田﨑みなみ（栃木県立岡本台病院）
レジデント(派遣)　織田裕美子（栃木県立岡本台病院）、前原　稜（室井病院）
光野真登（栃木県立岡本台病院）
研　究　生　佐藤勇人（佐藤病院）、森　和也（佐藤病院）、井上義政
古郡華子（黒石あけぼの病院）、土嶺章子（リコー）
実験助手　川井一良、高橋由実
名誉教授　大森健一（滝澤病院）
特任教授　高橋三郎（埼玉江南病院）
非常勤講師　中野隆史、黒田仁一（西が丘病院）、朝日晴彦（朝日病院）、朝日公彦（朝日病院）
駒橋　徹（鹿沼病院）、 室井秀太（室井病院）、岡田正樹（日立梅ヶ丘病院）
石黒　慎（こころの花クリニック）、渡邊　崇（青木病院）

新入局員挨拶

獨協医科大学病院精神神経科　レジデント
眞　銅　佑之介

令和４年度に獨協医科大学精神神経科に入局いたしました眞銅佑之介と申します。

おそらく初めてこの名字を見る方も多いのではないでしょうか。初見の方はだいたい「銅」を「鍋」と読み間違えて「まなべ」と読まれますが、全く違います。正しくは「しんどう」と読みます。以後お見知りおきください。全国で 40 人くらいしか存在しないという非常に稀な名字だそうで、少なくとも親族以外でこの名前の方に遭遇したことはないです。大阪に多い名字のようですが、私の親族は全く関係なく、出身は東京都になります。

大学生活と初期研修はどちらも獨協医科大学で過ごしました。大学入学前はずっと東京都で育ってきたため、大学入試で初めて栃木県に足を踏み入れた時に、地元の環境との大きな違いに大変驚きました（周辺に公共交通機関がほとんど存在しないことや街灯が一つもない道が存在することに対して特に衝撃を受けました)。ですが、栃木県に来て９年経った今は、むしろ地元で交通機関を使うことや人混みの多い場所に行くことにためらいがあるくらいには栃木県に馴染んできた気はしています。

父が精神科医（元小児科医）であることもあり、幼少期から医師を将来の夢にして過ごしていました。精神科医に興味が出始めた時期としては、医学生になってからの実習で老人保健施設に行ったあたりでしょうか。その施設での共同生活になかなか馴染めない方とじっくりと話をした後に「あなたのおかげで気持ちが楽になれた、頑張ってみる」と感謝され、大きな喜びを感じたと共に、傾聴により悩みや不安を少しでも解消してあげることが出来る素晴らしさに気づくことができました。今となってはそれが精神神経科入局の最初のきっかけだったのだと思います。

しかし、病棟実習で精神神経科を回った時に担当となった患者さんが陰性症状の強い統合失調症であったこともあり、上手く話を引き出すことが出来ず、大きなショックを受け、自分は精神科医に向いてないのではないかと悩んだ時期もありました。それでも初期研修で他科を含め、より多くの時間を患者さんとの診察に使うことで、患者さんの性格や背景を考慮する余裕が生まれ、それに応じて接し方を変えてみるなどのやり方で徐々に苦手意識がなくなりつつありそうです。（まだ重症例に出会っていないだけかもしれませんが）

今は医師として人間として未熟なことばかりで至らぬ点が多々あるかと存じますが、これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

専攻医挨拶

獨協医科大学病院精神神経科　レジデント
長　谷　　達

4月から1年間、精神神経科で研修させていただいている長谷達と申します。

私は今年度から栃木県立岡本台病院の所属レジデントとして専門医研修をスタートし、1年目に連携施設の獨協医大病院にお世話になっています。簡単な経歴としては、防衛医大病院での2年間の初期研修ののち、三重県にある駐屯地の医務室で2年間勤務（その間近隣病院で放射線科を研修）、その後自衛隊の退職とともに専攻を精神科に変更し、自宅のある栃木県内の病院での専門研修プログラムを選択しました。元々学生時代に、人間が普段考え、感じる「顕在意識」の数万倍の情報処理能力を有する「潜在意識」の奥深さに感銘を受けたことがきっかけで、心理学や精神医学に多少なりとも関心を持っていました。初期研修医として精神科をまわった際、実際の臨床で人間の「こころ」というセンシティブな領域にアプローチし、薬物療法をはじめとした治療で患者の精神症状を改善させていく医師の姿を見て、身体科では感じ得なかった魅力も感じました。CT、MRI等の画像診断における、「異常」の可視化や全身を隈なく観察できる点が気に入り放射線科の道に足を踏み入れていましたが、今一度悩んだ末に転科を決めました。

精神科領域の初学者ということに加えて病棟勤務が初期研修医以来という慣れない状況の中で、医局の先生方には多大なご迷惑をお掛けしているかと思いますが、お忙しい中時間を作って熱心なご指導をいただき感謝しております。1年間という短い時間ではありますが、教育機関ならではの学習機会を十分に活用しつつ、大学病院でしか経験することの難しい症例にも出会えていけたらと考えています。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

サッカーが好きでよく観に行きます。
上段左から
日産スタジアム、埼スタ2002、
カンセキスタジアムとちぎ
（栃木SCの本拠地）

新博士誕生

獨協医科大学精神神経医学講座
佐々木　太　郎

この度、博士学位の資格を取得することができました。この場をお借りしましてご報告申し上げます。

学位論文を作成するにあたり、研究計画の立案、ベンラファキシンのサンプル収集やデータの解析、英語論文の執筆等には、下田和孝教授、古郡規雄准教授、渡邊崇先生、林有希先生、土嶺章子先生、加藤和子先生にご協力やご指導をいただき、またベンラファキシンの血中濃度の測定については井上義政様からご協力いただきましたことを御礼申し上げます。

今回、Basic & Clinical Pharmacology & Toxicology に掲載された論文は、セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬に分類されるうつ薬であるベンラファキシン（イフェクサー®）の薬理遺伝学的研究に関係した内容でした。研究開始当初は、勝手どころか、サンプル収集等で手一杯でしたが、先生方のお力添えによりデータが揃い、研究が形になるにつれて日常の臨床業務では中々味わう機会のない、貴重な達成感を得ることが出来ました。

研究だけでなく、地方の学会（今ではコロナ禍のため、厳しくなってしまいましたが）に参加し、発表するといった貴重な経験を得、大学院に入学する前に抱いていた、日当たりの悪い実験室で延々モニターやら試験管やらを眺めるイメージは大きく変わり、とてもアクティブな世界なのだなあ、と固陋な思考を改めることができました。また英語がからっきしですので、英語論文の作成という、辛いながらもこのような機会が無ければ一生関わる事の無い経験が出来たことは自分にとっていい財産となりました。論文検索など基礎的な文献収集能力を磨くことが出来たことも今後の臨床に役立てていけたら、と考えております。

学位を取得したとはいえ、精神科医としてはいまだ経験も浅く、これからも日々精進していく所存であります。今後とも諸先生方にはご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

新博士誕生

獨協医科大学精神神経医学講座
佐々木　はづき

平成 30 年 4 月に大学院に入学し、この度、令和 4 年 3 月に博士（医学）の学位を取得することが出来ました。この場を借りてご報告させていただきます。

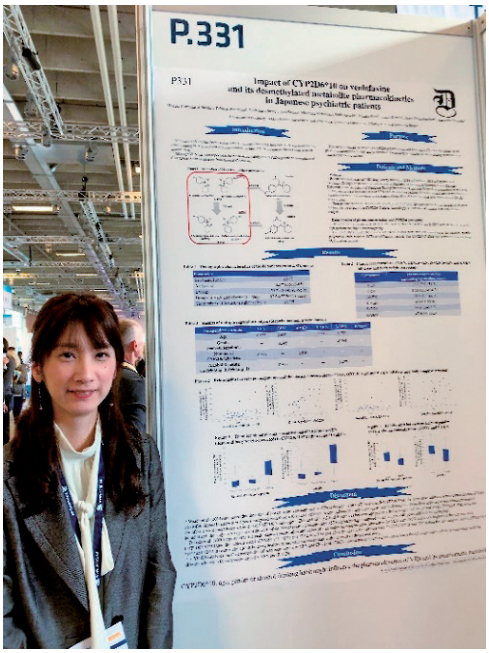
論文は Effects of CYP2D6 genotypes on venlafaxine metabolism in Japanese psychiatric patients with depression（うつ病を伴う日本人精神疾患患者における venlafaxine 代謝に及ぼす CYP2D6 遺伝子型の影響について）」です。論文を執筆するのにあたって、臨床業務の合間にサンプル収集し、データの解析を行いましたが、薬理学や統計解析がちんぷんかんぷんな私は、周りの先生方に大いにご指導いただき、ようやく理解が出来たような有り様でした。研究課題と関連のありそうな英語論文を抄読し、考察するという作業も、一人であったら根を上げてしまっていたでしょう。下田教授には「学位論文作成とらの穴」で夜遅くまでご指導いただき、古郡先生には英文や構成をご添削いただいて、何とか乗り越えることができました。

また、研究計画の立案、データの解析には、菅原典夫先生、渡邊崇先生、林有希先生、篠﨑將貴先生にご指導をいただきました。サンプル収集には、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所の土嶺章子先生、さくら･ら心療内科の加藤和子先生、佐々木太郎先生に、ベンラファキシンの血漿中濃度の測定には井上義政様にご協力いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

研究の成果を発表すべく臨んだ国内外での学会発表も思い出深いもので、臨床業務の場だけではできない貴重な体験をたくさんさせていただきました。

学位を取得したとはいえ、精神科医としてはまだまだ勉強も経験も不足しており、未熟な身であります。今後とも諸先生方には、ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

第35回
日本TDM学会・学術大会
2018年
5月26日(土)～27日(日)
家入 一郎


P.331

2021年11月　獨協医科大学精神神経医学講座集合写真

—— 2021 年の講座業績 ——

■2021年業績

＜英文原著＞

Yasui-Furukori N, Muraoka H, Hasegawa N, Ochi S, Numata S, Hori H, Hishimoto A, Onitsuka T, Ohi K, Hashimoto N, Nagasawa T, Takaesu Y, Inagaki T, Tagata H, Tsuboi T, Kubota C, Furihata R, Iga JI, Iida H, Miura K, Matsumoto J, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Shimoda K, Hashimoto R.
Association between the examination rate of treatment-resistant schizophrenia and the clozapine prescription rate in a nationwide dissemination and implementation study.
Neuropsychopharmacology Reports 42:3-9, 2022. doi: 10.1002/npr2.12218.

Sasaki T, Yasui-Furukori N, Komahashi-Sasaki H, Shinozaki M, Hayashi Y, Kato K, Inoue Y, Tsuchimine S, Watanabe T, Sugawara N, Shimoda K
CYP2D6*10 polymorphism and the enantioselective O-desmethylation of S-(+)-and R-(-)-venlafaxine in Japanese psychiatric patients.
Basic & Clinical Pharmacology & Toxicology 128:677-685, 2021. doi: 10.1111/bcpt.13560.

Tokumitsu K, Yasui-Furukori N, Takeuchi J, Yachimori K, Sugawara N, Terayama Y, Tanaka N, Naraoka T, Shimoda K.
The combination of MMSE with VSRAD and eZIS has greater accuracy for discriminating mild cognitive impairment from early Alzheimer's disease than MMSE alone.
PLoS One 16:e0247427, 2021. doi: 10.1371/journal.pone.0247427.

Komahashi-Sasaki H, Yasui-Furukori N, Sasaki T, Shinozaki M, Hayashi Y, Kato K, Inoue Y, Tsuchimine S, Watanabe T, Sugawara N, Shimoda K.
Effects of CYP2D6 genotypes on venlafaxine metabolism in Japanese psychiatric patients with Depression.
Therapeutic Drug Monitoring. 43:681-687, 2021 doi: 10.1097/FTD.0000000000000854.

Tokumitsu K, Yasui-Furukori N, Adachi N, Kubota Y, Watanabe Y, Miki K, Azekawa T, Edagawa K, Katsumoto E, Hongo S, Goto E, Ueda H, Kato M, Nakagawa A, Kikuchi T, Tsuboi T, Watanabe K, Shimoda K, Yoshimura R.
Real-world clinical predictors of manic/hypomanic episodes among outpatients with bipolar disorder.
PLoS One. 16:e0262129, 2021. doi: 10.1371/journal.pone.0262129.

Tasaki M, Yasui-Furukori N, Kubo K, Yokoyama S, Shinozaki M, Sugawara N, Inoue Y, Shimoda K.
Relationship of prolactin concentrations to steady-state plasma concentrations of aripiprazole in patients with schizophrenia.
Therapeutic Drug Monitoring. 43:589-592, 2021 doi: 10.1097/FTD.0000000000000843.

Okayasu H, Shinozaki T, Takano Y, Sugawara N, Fujii K, Yasui-Furukouri N, Ozeki Y, Shimoda K.
Effects of antipsychotics on arrhythmogenic parameters in schizophrenia patients: beyond corrected QT interval.
Neuropsychiatric Disease and Treatment 17:239-249, 2021. doi: 10.2147/NDT.S287042.

Matsuo K, Kono K, Shimoda K, Kaji Y, Akiyama K.
Reproducibility of the lateralization index in functional magnetic resonance imaging across language tasks.
Journal of Neurolinguistics. 57 (Cover date: February 2021): Article 100943, 2020
doi: 10.1016/j.jneuroling.2020.100943

Tasaki M, Yasui-Furukori N, Yokoyama S, Shinozaki M, Sugawara N, Shimoda K.
Hypoprolactinemia and hyperprolactinemia in male schizophrenia patients treated with aripiprazole and risperidone and their relationships with testosterone levels.
Neuropsychopharmacology reports 41:379-384, 2021. doi: 10.1002/npr2.12190.

Clerc SL, Lombardi L, Baune BT, Amare AT, Schubert KO, Hou L, Clark SR, Papiol S, Cearns M, Heilbronner U, Degenhardt F, Tekola-Ayele F, Hsu Y-H, Shekhtman T, Adli M, Akula N, Akiyama K, Ardau R, Arias B, Aubry J-M, Backlund L, Bhattacharjee AK, Bellivier F, Benabarre A, Bengesser S, Biernacka JM, Birner A, Brichant-Petitjean C, Cervantes P, Chen HC, Chillotti C, Cichon S, Cruceanu C, Czerski PM, Dalkner N, Dayer A, Zompo MD, DePaulo JR, Étain B, Jamain S, Falkai P, Forstner AJ, Frisen L, Frye MA, Fullerton JM, Gard S, Garnham JS, Goes FS, Grigoroiu-Serbanescu M, Grof P, Hashimoto R, Hauser J, Herms S, Hoffmann P, Jiménez E, Kahn J-P, Kassem L, Kuo P-H, Kato T, Kelsoe JR, Kittel-Schneider SK, Ferensztajn-Rochowiak E, König B, Kusumi I, Laje G, Landén M, Lavebratt C, Leckband SG, Tortorella A, Manchia M, Martinsson L, McCarthy MJ, McElroy SL, Colom F, Millischer V, Mitjans M, Mondimore FM, Monteleone P, Nievergelt CM, Nöthen MM, Novák T, O'Donovan C, Ozaki N, Ösby U, Pfennig A, Potash JB, Reif A, Reininghaus E, Rouleau GA, Rybakowski JK, Schalling M, Schofield PR, Schweizer BW, Severino G, Shilling PD, Shimoda K, Simhandl C, Slaney CM, Pisanu, Squassina CA, Stamm T, Stopkova P, Maj M, Turecki G, Vieta E, Veeh J, Witt SH, Wright A, Zandi PP, Mitchell PB, Bauer M, Alda, M Rietschel M, McMahon FJ, Schulze TG, Spadoni J-L, Boukouaci W, Richard J-R, Le Corvoisier P, Barrau C, Zagury C-F, Leboyer M, Tamouza R.
HLA-DRB1 and HLA-DQB1 genetic diversity modulates response to lithium in bipolar affective disorders.

Scientific Reports 11:17823, 2021. doi: 10.1038/s41598-021-97140-7.

Schubert KO, Thalamuthu A, Amare AT, Frank J, Streit F, Adl M, Akula N, Akiyama K, Ardau R, Arias B, Aubry JM, Backlund L, Bhattacharjee AK, Bellivier F, Benabarre A, Bengesser S, Biernacka JM, Birner A, Marie-Claire C, Cearns M, Cervantes P, Chen HC, Chillotti C, Cichon S, Clark SR, Cruceanu C, Czerski PM, Dalkner N, Dayer A, Degenhardt F, Del Zompo M, DePaulo JR, Étain B, Falkai P, Forstner AJ, Frisen L, Frye MA, Fullerton JM, Gard S, Garnham JS, Goes FS, Grigoroiu-Serbanescu M, Grof P, Hashimoto R, Hauser J, Heilbronner U, Herms S, Hoffmann P, Hou L, Hsu YH, Jamain S, Jiménez E, Kahn JP, Kassem L, Kuo PH, Kato T, Kelsoe J, Kittel-Schneider S, Ferensztajn-Rochowiak E, König B, Kusumi I, Laje G, Landén M, Lavebratt C, Leboyer M, Leckband SG, Maj M; Major Depressive Disorder Working Group of the Psychiatric Genomics Consortium, Manchia M, Martinsson L, McCarthy MJ, McElroy S, Colom F, Mitjans M, Mondimore FM, Monteleone P, Nievergelt CM, Nöthen MM, Novák T, O'Donovan C, Ozaki N, Ösby U, Papiol S, Pfennig A, Pisanu C, Potash JB, Reif A, Reininghaus E, Rouleau GA, Rybakowski JK, Schalling M, Schofield PR, Schweizer BW, Severino G, Shekhtman T, Shilling PD, Shimoda K, Simhandl C, Slaney CM, Squassina A, Stamm T, Stopkova P, Tekola-Ayele F, Tortorella A, Turecki G, Veeh J, Vieta E, Witt SH, Roberts G, Zandi PP, Alda M, Bauer M, McMahon FJ, Mitchell PB, Schulze TG, Rietschel M, Baune BT.
Combining schizophrenia and depression polygenic risk scores improves the genetic prediction of lithium response in bipolar disorder patients
Translational Psychiatry. 11:606, 2021. doi: 10.1038/s41398-021-01702-2.

Sugawara N, Yasui-Furukori N, Shimoda K.
Projections of psychiatrists' distribution for patients in Japan: a utilization-based approach
Human Resources for Health 19:49, 2021

Shinozaki M, Yasui-Furukori N, Adachi N, Ueda H, Hongo S, Azekawa T, Kubota Y, Katsumoto E, Edagawa K, Goto E, Miki K, Kato M, Nakagawa A, Kikuchi T, Tsuboi T, Watanabe K, Shimoda K, Yoshimura R.
Differences in prescription patterns between real-world outpatients with bipolar I and II disorders in the MUSUBI survey. Asian Journal of Psychiatry 67:102935, 2022. doi: 10.1016/j.ajp.2021.102935.

Sugawara N, Yasui-Furukori N, Fukushima A, Shimoda K.
Attitudes of medical students toward COVID-19 vaccination: who is willing to receive a third dose of the vaccine?
Vaccines (Basel). 9:1295, 2021 doi: 10.3390/vaccines9111295.

Takeuchi H, Takekita Y, Hori H, Oya K, Miura I, Hashimoto N, Yasui-Furukori N.
Pharmacological treatment algorithms for the acute phase, agitation, and maintenance phase of

first-episode schizophrenia: Japanese Society of Clinical Neuropsychopharmacology treatment algorithms.
Human Psychopharmacolgy. 36:e2804, 2021 doi: 10.1002/hup.2804.

Konno Y, Fujino Y, Ikenouchi A, Adachi N, Kubota Y, Azekawa T, Ueda H, Edagawa K, Katsumoto E, Goto E, Hongo S, Kato M, Tsuboi T, Yasui-Furukori N, Nakagawa A, Kikuchi T, Watanabe K, Yoshimura R.
Relationship between mood episode and employment status of outpatients with bipolar disorder: retrospective cohort study from the multicenter treatment survey for bipolar disorder in psychiatric clinics (MUSUBI) project.
Neuropsychiatric Disease and Treatment. 17:2867-2876, 2021 doi: 10.2147/NDT.S322507.

Hashimoto N, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Ishikawa S, Numata S, Hori H, Iida H, Ichihashi K, Furihata R, Murata A, Tsuboi T, Takeshima M, Kyou Y, Komatsu H, Kubota C, Ochi S, Takaesu Y, Usami M, Nagasawa T, Hishimoto A, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yamada H, Inada K, Watanabe K, Shimoda K, Hashimoto R.
Characteristics of discharge prescriptions for patients with schizophrenia or major depressive disorder: Real-world evidence from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education (EGUIDE) psychiatric treatment project.
Asian Journal of Psychiatry. 63:102744, 2021. doi: 10.1016/j.ajp.2021.102744.

Kawamata Y, Sugawara N, Ishioka M, Kubo K, Suzuki K, Fujii A, Furukori H, Nakagami T, Yasui-Furukori N, Shimoda K.
Different attitudes of patients and psychiatrists toward benzodiazepine treatment.
Neuropsychiatric Disease and Treatment. 17:1927-1936, 2021. doi: 10.2147/NDT.S314440.

Numata S, Nakataki M, Hasegawa N, Takaesu Y, Takeshima M, Onitsuka T, Nakamura T, Edagawa R, Edo H, Miura K, Matsumoto J, Yasui-Furukori N, Kishimoto T, Hori H, Tsuboi T, Yasuda Y, Furihata R, Muraoka H, Ochi S, Nagasawa T, Kyou Y, Murata A, Katsumoto E, Ohi K, Hishimoto A, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.
Improvements in the degree of understanding the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorder in a nationwide dissemination and implementation study.
Neuropsychopharmacology Reports. 41:199-206, 2021 doi: 10.1002/npr2.12173

Sakurai H, Yasui-Furukori N, Suzuki T, Uchida H, Baba H, Watanabe K, Inada K, Kikuchi YS, Kikuchi T, Katsuki A, Kishida I, Kato M.
Pharmacological treatment of schizophrenia: Japanese expert consensus.
Pharmacopsychiatry. 54:60-67, 2021 doi: 10.1055/a-1324-3517.

Adachi N, Azekawa T, Edagawa K, Goto E, Hongo S, Kato M, Katsumoto E, Kikuchi T, Kubota Y, Miki K, Nakagawa A, Tsuboi T, Ueda H, Watanabe K, Watanabe Y, Yasui-Furukori N, Yoshimura R.
Estimated model of psychotropic polypharmacy for bipolar disorder: Analysis using patients' and practitioners' parameters in the MUSUBI study.
Human Psychopharmacolgy. 36:e2764, 2021 doi: 10.1002/hup.2764.

Cearns M, Amare AT, Schubert KO, Thalamuthu A, Frank J, Streit F, Adli M, Akula N, Akiyama K, Ardau R, Arias B, Aubry J-M, Backlund L, Bhattacharjee AK, Bellivier F, Benabarre A, Bengesser S, Biernacka JM, Birner A, Brichant-Petitjean C, Cervantes P, Chen H-C, Chillotti C, Sven Cichon S, Cruceanu C, Czerski PM, Dalkner N, Dayer A, Degenhardt F, Del Zompo M, DePaulo JR, Étain B, Falkai P, Forstner AJ, Frisen L, Frye MA, Fullerton JM, Gard S, Garnham JS, Goes FS, Grigoroiu-Serbanescu M, Grof P, Hashimoto R, Hauser J, Heilbronner U, Herms S, Hoffmann P, Hofmann A, Hou L, Hsu Y-H, Jamain S, Jiménez E, Kahn J-P, Kassem L, Kuo P-H, Kato T, Kelsoe J, Kittel-Schneider S, Kliwicki S, König B, Kusumi I, Laje G, Landén M, Lavebratt C, Leboyer M, Leckband SG, Maj M, Major Depressive Disorder Working Group of the Psychiatric Genomics Consortium; Manchia M, Martinsson L, McCarthy MJ, McElroy S, Colom F, Mitjans M, Mondimore FM, Monteleone P, Nievergelt CM, Nöthen MM, Novák T, O'Donovan C, Ozaki N, Millischer V, Papiol S, Pfennig A, Pisanu C, Potash JB, Reif A, Reininghaus E, Rouleau GA, Rybakowski JK, Schalling M, Schofield PR, Schweizer BW, Severino G, Shekhtman T, Shilling PD, Shimoda K, Simhandl C, Slaney CM, Squassina A, Stamm T, Stopkova P, Tekola-Ayele F, Tortorella A, Turecki G, Veeh J, Vieta E, Witt SH, Roberts G, Zandi PP, Alda M, Bauer M, McMahon FJ, Mitchell PB, Schulze TG, Rietschel M, Clark SR, Baune BT.
Using polygenic scores and clinical data for bipolar disorder patient stratification and lithium response prediction: machine learning approach.
British Journal of Psychiatry May 4:1, 2022. doi: 10.1192/bjp.2022.55

Katagai H, Yasui-Furukori N, Kawashima H, Suwa T, Tsushima C, Sato Y, Shimoda K, Tasaki H.
Serial case report of high seizure threshold patients that responded to the lengthening of pulse width in ECT.
Neuropsychopharmacology Reports 42:105-108, 2022. doi: 10.1002/npr2.12224.

Sugawara N, Yasui-Furukori N , Yamada S, Aoki M, Takeuchi Y, Miyazaki K, Shimoda K
Relationship between cognitive functions and decision-making capacity in older institutionalized patients with schizophrenia: A preliminary study
Neuropsychiatric Disease and Treatment 18:891-897, 2022 doi: https://doi.org/10.2147/NDT.S357067

Ichihashi K, Kyou Y, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Shimizu Y, Hori H, Hashimoto N, Ide K, Imamura Y, Yamada H, Ochi S, Iga JI, Takaesu Y, Ohi K, Tsuboi T, Iida H, Yamagata H,

Hishimoto A, Horai T, Usami M, Makinodan M, Nagasawa T, Komatsu H, Kido M, Muraoka H, Atake K, Takeshima M, Kubota C, Inagaki T, Tamai S, Kishimoto T, Furihata R, Matsumoto J, Miura K, Inada K, Watanabe K, Kasai K, Hashimoto R.
The characteristics of patients receiving psychotropic pro re nata medication at discharge for the treatment of schizophrenia and major depressive disorder: A nationwide survey from the EGUIDE project.
Asian Journal of Psychiatry 69:103007, 2022. doi: 10.1016/j.ajp.2022.103007.

Furihata R, Otsuki R, Hasegawa N, Tsuboi T, Numata S, Yasui-Furukori N, Kashiwagi H, Hori H, Ochi S, Muraoka H, Onitsuka T, Komatsu H, Takeshima M, Hishimoto A, Nagasawa T, Takaesu Y, Nakamura T, Asami T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yasuda Y, Iida H, Ogasawara K, Hashimoto N, Ichihashi K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R.
Hypnotic medication use among inpatients with schizophrenia and major depressive disorder: results of a nationwide study.
Sleep Medicine. 89:23-30, 2022 doi: 10.1016/j.sleep.2021.11.005.

Sugawara N, Yasui-Furukori N, Maruo K, Shimoda K, Sumiyoshi T.
Psychological distress in caregivers for people with dementia: A population-based analysis of a national cross-sectional study.
Journal of Alzheimer's Disease. 85:667-674, 2022. doi: 10.3233/JAD-210680.

Hori H, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Iga JI, Ochi S, Ichihashi K, Furihata R, Kyo Y, Takaesu Y, Tsuboi T, Kodaka F, Onitsuka T, Okada T, Murata A, Kashiwagi H, Iida H, Hashimoto N, Ohi K, Yamada H, Ogasawara K, Yasuda Y, Muraoka H, Usami M, Numata S, Takeshima M, Yamagata H, Nagasawa T, Tagata H, Makinodan M, Kido M, Katsumoto E, Komatsu H, Matsumoto J, Kubota C, Miura K, Hishimoto A, Watanabe K, Inada K, Kawasaki H, Hashimoto R.
Prescription of anticholinergic drugs in patients with schizophrenia: analysis of antipsychotic prescription patterns and hospital characteristics.
Frontier in Psychiatry. 13:823826, 2022 doi: 10.3389/fpsyt.2022.823826.

Yamada H, Motoyama M, Hasegawa N, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yasui-Furukori N, Numata S, Takeshima M, Sugiyama N, Nagasawa T, Kubota C, Atake K, Tsuboi T, Ichihashi K, Hashimoto N, Inagaki T, Takaesu Y, Iga JI, Hori H, Onitsuka T, Komatsu H, Hishimoto A, Fukumoto K, Fujimoto M, Nakamura T, Nemoto K, Furihata R, Yamamura S, Yamagata H, Ogasawara K, Katsumoto E, Murata A, Iida H, Ochi S, Makinodan M, Kido M, Kishimoto T, Yasuda Y, Usami M, Suwa T, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.
A dissemination and education programme to improve the clinical behaviours of psychiatrists in accordance with treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders: the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE) project.

BJPsych Open. 8(3):e83, 2022 doi: 10.1192/bjo.2022.44.

Ikenouchi A, Konno Y, Fujino Y, Adachi N, Kubota Y, Azekawa T, Ueda H, Edagawa K, Katsumoto E, Goto E, Hongo S, Kato M, Tsuboi T, Yasui-Furukori N, Nakagawa A, Kikuchi T, Watanabe K,Yoshimura R.
Relationship between Employment Status and Unstable Periods in Outpatients with Bipolar Disorder: A Multicenter treatment survey for bipolar disorder in psychiatric outpatient clinics (MUSUBI) study.
Neuropsychiatric Disease and Treatment. 18:801-809, 2022. doi: 10.2147/NDT.S353460.

Coombes BJ, Millischer V, Batzler A, Larrabee B, Hou L, Papiol S, Heilbronne U, Adli M, Akiyama K, Akula N, Amare AT, Ardau R, Arias B, Aubry J-M, Backlund L, Bauer M, Baune BT, Bellivier F, Benabarre A, Bengesser S, Bhattacharjee AK, Cervantes P, Chen H-C, Chillotti C, Cichon S, Clark SR, Cruceanu C, Colom F, Czerski PM, Dalkner N, Degenhardt F, Zompo MD, DePaulo JR, Étain B, Falkai P, Ferensztajn-Rochowiak E, Forstner AJ, Frisen L, Gard S, Garnham JS, Goes FS, Grigoroiu-Serbanescu M, Grof P, Hashimoto R, Hauser J, Herms S, Hoffmann P, Jamain S, Jiménez E, Kahn J-P, Layla Kassem L, Kato T, Kelsoe J, Kittel-Schneider S, König B, Kuo P-H, Kusumi I, Laje G, Landén M, Lavebratt C, Leboyer M, Leckband SG, Maj M, Manchia M, Martinsson L, McCarthy MJ, McElroy SL, Mitchell PB, Mitjans M, Mondimore FM, Monteleone P, Nievergelt CM, Nöthen MM, Novák T, O'Donovan C, Osby U, Ozaki N, Pfennig A, Pisanu C, Potash JB, Reif A, Reininghaus E, Rietschel M, Rouleau GA, Rybakowski JK, Schalling M, Schofield PR, Schubert O, Schweizer BW, Severino G, Shekhtman T, Shilling PD, Shimoda K, Simhandl C, Slaney CM, Squassina A, Stamm T, Stopkova P, Tortorella A, Turecki G, SWitt SH, Zandi PP, Fullerton J, Alda M, Frye M, Schulze TG, McMahon FJ, Biernacka JM
Association of ADHD and depression polygenic scores with lithium response: A Consortium for Lithium Genetics study. Complex Psychiatry (in press)

＜英文総説＞

Sato Y, Sugawara N, Kono Y, Fujihira A, Suzuki K, Yasui-Furukori N, Shimoda K, Tatsumoto M
Association between psychotropic medications and cases of severe falls from hospital patient safety reports.
Journal of Patient Safety (in press)

Yasui-Furukori N, Sugawara N, Shimoda, K
Appropriate monitoring may affect the life expectancy of patients with mental disorders in Japan: Literature review on guideline s for serious physical risks
Dokkyo Medical Journal　1: 14-21, 2022

Yokoyama S, Sugawara N, Maruo K, Yasui-Furukori N, Shimoda K.
Blood levels of ammonia and carnitine in patients treated with valproic acid: a meta-analysis
Clinical Psychopharmacology and Neuroscience (in press)

Onitsuka T, Hirano Y, Nakazawa T, Ichihashi K, Miura K, Inada K, Mitoma R, Yasui-Furukori N, Hashimoto R.
Toward recovery in schizophrenia: Current concepts, findings, and future research directions.
Psychiatry Clin Neurosci. doi: 10.1111/pcn.13342 (in press)

＜英文症例報告＞

Sato Y, Sugawara N, Kono Y, Fujihira A, Suzuki K, Yasui-Furukori N, Shimoda K, Tatsumoto M.
Association between psychotropic medications and cases of severe falls from hospital patient safety reports.
Journal of Patient Safety (in press)

Kikuchi K, Yasui-Furukori N, Hasegawa C, Watabiki A, Inoue T, Shimoda K,
Takotsubo cardiomyopathy after hypoglycemia in a patient with anorexia nervosa.
Annals of General Psychiatry 20:39, 2021. doi: 10.1186/s12991-021-00364-0

Yokoyama S, Sugisaki T, Yoshida R, Sato Y, Okayasu H, Shioda, M, Suzuki K, Yasui-Furukori, N, Shimoda, K.
Transient glyphosate encephalopathy due to a suicide attempt
Neuropsychopharmacology reports 41:444-447, 2021 doi: 10.1002/npr2.12201

Maehara R, Kawamata Y, Ichikawa M, Mitani K, Yasui-Furukori N, Shimoda K.
Suicide attempt induced by drug-induced leukoencephalopathy: A case report
Neuropsychopharmacology reports 41:51-553, 2021 doi: 10.1002/npr2.12214.

Okayasu H, Yasui-Furukori, N, Shimoda, K.
A pregnant woman who experienced auditory hallucinations concurrent with hyperemesis gravidarum: A case report.
Neuropsychopharmacology reports 41:548-550, 2021. doi: 10.1002/npr2.12206.

Tokumitsu K, Oyama S, Takeuchi J, Yachimori K, Sugawara N, Yasui-Furukori N, Shimoda K.
Heidenhain variant of Creutzfeldt-Jakob disease resembles dementia with Lewy bodies.
Psychogeriatrics. 21:121-124, 2021 doi: 10.1111/psyg.12640.

Nagoshi A, Kijima T, Suzuki I, Sakamoto K, Nozaki F, Fujisawa D, Sugawara N, Shimoda K,

Asato H, Kamai K.
A case of penile self-mutilation during a suicidal attempt successfully treated using a multidisciplinary approach.
IJU Case Reports 5:165-167, 2022. doi: 10.1002/iju5.12424.

Komahashi-Sasaki H, Yasui-Furukori N, Maehara R, Hasegawa C, Shimoda K.
A case of mood disorder with severe side effects of antidepressants in association with resistance to thyroid hormone beta with a THRB mutation (in press)

Sato A, Yasui-Furukori N, Oda Y, Yang M, Suzuki Y, Shinozaki M, Shimizu T, Shimoda K.
Asymptomatic syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone (SIADH) following duloxetine treatment for pain with depression: Two case reports.
Neuropsychopharmacology Reports (in press)

＜英文著書（分担執筆）＞

Lin K-M, Braakman M, Shimoda K, Yasui-Furukori N.
Ethnic and Cultural Perspectives in Psychopharmacology
In: Tasman's Psychiatry, 5th Ed. (ed: Tasman A, Riba MB, Alarcón RD, Alfonso CA, Kanba S, Ndetei DM, Ng CH, Schulze TG, Lecic-Tosevski D), Springer (in press)

Yasui-Furukori N, Yoshida R, Shimoda K.
Gender differences and pharmacotherapy of schizophrenia
In: Schizophrenia - Recent Advances and Patient-Centered Treatment Perspectives (ed: Sara Tikel), Intechopen Limited, UK (in press)

＜和文総説＞

古郡規雄、下田和孝
精神科臨床における薬物動態と薬物相互作用
日本精神薬学会会誌 4 ：10-13, 2021

古郡規雄、下田和孝
精神科領域におけるTDMの展望.
臨床精神薬理, 2022, 25, 3 -7.

篠﨑將貴、佐々木太郎、佐々木はづき、古郡規雄、下田和孝
向精神薬の薬物代謝・動態に関する基礎知識.
臨床精神薬理. 24：117-123, 2021

古郡規雄、西村勝治、久住一郎、新津富央、稲田　健、上野雄文、木下利彦、三村　將、

中込和幸、下田和孝、橋本亮太
クロザピンモニタリング制度に関する学会での活動.
臨床精神薬理. 24：295-302, 2021

古郡規雄、橋本亮太
クロザピンモニタリング制度の現在と未来.
臨床精神薬理. 24：215-220, 2021

古郡規雄、下田和孝
高齢者併存疾患患者における抗うつ薬の臨床薬理.
臨床薬理 52：85-88, 2021

佐藤　葵、佐藤由英、古郡規雄、下田和孝
向精神薬の合剤の可能性について.
臨床精神薬理24：619-623, 2021

大和田環、古郡規雄、下田和孝
精神疾患の悪化と間違えやすい身体の問題
精神科　39：720-724, 2021

佐藤　葵、古郡規雄、佐藤由英、下田和孝
糖脂質代謝異常
今日の精神科治療ハンドブック　精神科治療学（第36号増刊号）340-341, 2021

佐伯吉規、川原玲子
がん性疼痛緩和とケミカルコーピング.
臨床精神医学 50：855-863, 2021

佐伯吉規、川原玲子、 清水　研
がん患者の精神症状：精神科治療学.
精神科治療学 36 （増刊号）：292-295, 2021

佐伯吉規、川原玲子
せん妄でレスキュー薬が反復しても効果がないとき.
緩和ケア 31：503-507, 2021

佐伯吉規、 川原玲子
鎮静再考：安全な鎮静のために：緩和領域における安全な鎮静.
日本医師会雑誌 150：667-671, 2021

古郡規雄
ジェンダー課題－この数字に注目：13.2% ― 産後３～６カ月の男性のうつ病の割合
月間We learn 817, 2022

岡安寛明、古郡規雄、下田和孝
統合失調症に合併しやすい循環器系疾患と抗精神病薬治療の影響
臨床精神薬理25：377 -382, 2022.

光野真登、古郡規雄、下田和孝
統合失調症における凝固系の脆弱性と向精神薬治療の影響
臨床精神薬理　25：397 - 403, 2022

吉田良太、古郡規雄、下田和孝
統合失調症の性差と薬物療法
臨床精神薬理（印刷中）

鈴木桜子、佐々木太郎、古郡規雄、下田和孝
抗精神病薬と高プロラクチン血症
精神科（印刷中）

菅原 典夫、下田 和孝
抗精神病薬治療と糖尿病急性合併症
臨床精神薬理（印刷中）

<和文著書>
そこが知りたかった！精神科薬物療法のエキスパートコンセンサス
（編集：日本臨床精神神経薬理学会医学教育委員会、責任編集：古郡規雄、稲田 健）、新興医学出版（印刷中）

<国内学会発表>
岡安寛明、藤井久彌子、岡安美紀生、古郡規雄、尾関祐二、下田和孝
統合失調症患者における抗精神病薬治療とDeceleration Capacityとの関連
第30回日本臨床精神神経薬理学会ONLINE　2021年１月９日-10日

中澤　瞳、古郡規雄、菅原典夫、鬼木健太郎、猿渡淳二、山崎　學、下田和孝、寒河江豊昭、森　隆夫、須貝拓朗、松田ひろし、鈴木雄太郎、尾関祐二、土嶺章子、岡本呉賦、染矢俊幸
抗精神病薬誘発性メタボリックシンドロームにおける用量依存性の検討
第30回日本臨床精神神経薬理学会ONLINE　2021年１月９日-10日

横山沙安也、菅原典夫、丸尾和司、古郡規雄、下田和孝
バルプロ酸と高アンモニア血症および低カルニチン血症についてのメタ解析
第30回日本臨床精神神経薬理学会ONLINE　2021年１月９日-10日

古川　葵、林　有希、篠崎將貴、梁　美紗、志水太郎、下田和孝
デュロセチンによるSIADHを呈したうつ病患者の一例
第74回栃木県精神医学会・第39回栃木気分障害研究会、宇都宮（hybrid）、2021年３月５日

織田裕美子、篠崎將貴、古郡規雄、古川　葵、梁　美紗、志水太郎、下田和孝
デュロセチンによる低Na血症を呈し薬剤性SIADHと診断されたうつ病の１例
第40回日本精神科診断学会（online）、2021年３月６日-７日

菅原典夫、古郡規雄、辻　敏永、林　伸治、味澤嘉和、落合俊充、下田和孝
疼痛を伴う大うつ病性障害患者の単剤治療後における就労可能性の有無と治療開始前の臨床評価尺度の値との関係性
第17回日本うつ病学会総会（online）、2021年１月25日-31日

徳満敬大、古郡規雄、足立直人、窪田幸久、渡辺洋一郎 、三木和平、阿瀬川孝治、枝川浩二、
勝元榮一、本郷誠司、後藤英一郎、上田　均、加藤正樹、中川敦夫、菊地俊暁、坪井貴嗣、
渡邊衡一郎、下田和孝、吉村玲児
リアルワールドにおける双極性障害患者の躁病エピソード予測因子
第18回日本うつ病学会総会・第21回日本認知療法学会・認知行動療法学会、
2021年７月８日-10日、横浜

篠崎將貴、古郡規雄、足立直人、上田　均、本郷誠司、阿瀬川孝治、窪田幸久、勝元榮一、
枝川 浩二、後藤英一郎、三木和平、加藤正樹、吉村玲児、中川敦夫、菊地俊暁、坪井貴嗣、
渡邊衡一郎、下田和孝
リアルワールドにおける双極Ⅰ型・Ⅱ型障害の外来薬物療法の実態とは？ -MUSUBI2017より-
第18回日本うつ病学会総会・第21回日本認知療法学会・認知行動療法学会、
2021年７月８日-10日、横浜

松尾香弥子、古郡規雄、下田和孝、楫　靖、秋山一文
Neural fiber “conductivity” explains a mechanism of language lateralization
第43回日本生物学的精神医学会　第51回日本神経精神薬理学会合同年会　2021年７月14日-16日、
京都（hybrid）

藤井久彌子、前川正充、衞藤義勝、齋藤尚大、篠崎將貴、有銘預世布、永島隆秀、岡安寛明、
下田和孝、尾関祐二
『薬剤性』と判断される統合失調症のジストニアについて成人型ニーマンピック病C型の可能性

を検討する
第43回日本生物学的精神医学会　第51回日本神経精神薬理学会合同年会　2021年７月14日-16日、京都（hybrid）

横山宜史、石川高明、古郡規雄、下田和孝
リチウムによって腎性尿崩症を呈した高齢者の一例
第117回日本精神神経学会学術総会、2021年９月19日-21日、京都

菊池昂太、古郡規雄、横山沙安也、長谷川千絵、下田和孝
Clozapine誘発性好酸球増加症を呈し、中止後に好中球減少症を発症した統合失調症の１例
第117回日本精神神経学会学術総会、2021年９月19日-21日、京都

篠崎將貴、古郡規雄、足立直人、上田　均、本郷誠司、阿瀬川孝治、窪田幸久、勝元榮一、枝川浩一、後藤英一郎、三木和平、加藤正樹、吉村玲児、中川敦夫、菊池俊暁、坪井貴司、渡邊衡一郎、下田和孝
双極I型・II型障害の外来薬物療法の実態　=MUSUBI 2017調査より=
第117回日本精神神経学会学術総会、2021年９月19日-21日、京都

徳満敬大、古郡規雄、足立直人、窪田幸久、渡辺洋一郎、三木和平、阿瀬川幸治、枝川浩二、勝元榮一、本郷誠司、後藤英一郎、上田　均、加藤正樹、中川敦夫、菊池俊暁、坪井貴嗣、渡邊衡一郎、下田和孝、吉村玲児
実臨床における双極性障害外来患者の躁病エピソード予測因子
第31回日本臨床精神神経薬理学会、2021年10月８日-９日、東京（hybrid）

横山沙安也、古郡規雄、川俣安史、篠崎將貴、岡安寛明、佐藤由英、佐々木はづき、佐々木太郎、田崎みなみ、佐藤　葵、菅原典夫、下田和孝
統合失調症における20年間の処方動向
第31回日本臨床精神神経薬理学会、2021年10月８日-９日、東京（hybrid）

岡安寛明、藤井久彌子、岡安美紀生、菅原典夫、古郡規雄、尾関祐二、下田和孝
統合失調症患者における抗精神病薬使用やQT間隔とDecelation Capacityとの関連
第31回日本臨床精神神経薬理学会、2021年10月８日-９日、東京（hybrid）

岡安寛明、藤井久彌子、岡安美紀生、菅原典夫、古郡規雄、尾関祐二、下田和孝
気分障害患者における抗うつ薬治療とDecelation Capacityとの関連の予備的検討
第31回日本臨床精神神経薬理学会、2021年10月８日-９日

田崎みなみ、下田和孝、古郡規雄、菅原典夫、篠崎將貴、横山沙安也
アリピプラゾールとリスペリドンで治療された男性統合失調症患者の低プロラクチン血症と

テストステロン濃度との関係
第31回日本臨床精神神経薬理学会、2021年10月 8 日- 9 日、東京（hybrid）

徳満敬大、菅原典夫、丸尾和司、鈴木利人、古郡規雄、下田和孝
日本人男性の周産期うつ病有病割合、および周産期うつ病の男女の相対危険度
第17回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会　2021年10月23日-24日、web開催

長谷川千絵、下田和孝
アルコール使用障害のために精神科病棟に入院となったインド人男性の一例
第28回多文化間精神医学会学術総会、2021年11月12日-13日、web開催

吉田良太、横山沙安也、杉崎友美、佐藤由英、岡安寛明、塩田椋人、鈴木圭輔、古郡規雄、
下田和孝
自殺企図にてグリホサート脳症を来した 1 例
第34回日本総合病院精神医学会、2021年11月19日-20日、福井

田崎みなみ、古郡規雄、久保一利、横山沙安也、篠崎將貴、菅原典夫、井上義政、下田和孝
統合失調症患者におけるアリピプラゾールの定常状態での血漿中濃度とプロラクチン濃度との関係
第42回日本臨床薬理学会学術総会、2021年12月 9 日-11日、仙台（hybrid）

古郡規雄、篠崎將貴、川俣安史、佐々木太郎、駒橋　徹、竹内祥貴、横山沙安也、佐藤　葵、
岡安寛明、石川高明、菅原典夫、下田和孝
統合失調症の薬物治療の20年間の変遷：後ろ向きコホート調査
第75回栃木県精神医学会・第40回栃木気分障害研究会、2022年 2 月26日、宇都宮（hybrid）

長尾有樹子、平峰佳子、阿久津恵子、諏訪順子、安田　学、須田史朗、鈴木大作、関口智美、
根本亜紀、篠崎將貴、古郡規雄、下田和孝
自殺企図により救急入院となった患者の精神科継続支援
第75回栃木県精神医学会・第40回栃木気分障害研究会、2022年 2 月26日、宇都宮（hybrid）

<シンポジウムなど>

下田和孝
未来につながる日本臨床精神神経薬理学会のバトンリレー
-発足当時からの会員によるメッセージ-
第30回日本臨床精神神経薬理学会ONLINE　2021年 1 月 9 日-10日

下田和孝
日本臨床精神神経薬理学会（CNP）の現状の課題と今後の展開について
第31回日本臨床精神神経薬理学会、2021年10月 8 日- 9 日、東京（hybrid）

下田和孝、堀　輝
学会英文雑誌の改革　-日本臨床精神神経薬理学会　Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics　（CNPT）の場合-
病院マーケティングサミット2021、2021年12月１日-５日、web開催

下田和孝
Japan Pharmacology Year 2022 特別企画　アゴラ「学際領域から期待される薬理学のこれから」
臨床薬理学領域から
第95回日本薬理学会年会、2022年３月７日-９日、福岡（hybrid）

猿渡淳二、古郡規雄
精神科のポリファーマシーをどのように解決していくのか
精神科薬の薬物相互作用
第42回日本臨床薬理学会学術総会、2021年12月９日-11日、仙台（hybrid）

古郡規雄、橋本亮太
精神科のポリファーマシーをどのように解決していくのか　ガイドライン普及に向けた取り組み
第42回日本臨床薬理学会学術総会、2021年12月９日-11日、仙台（hybrid）

金子哲也、鬼木健太郎、古郡規雄、石津棟暎、猿渡淳二
次世代若手研究者が創る臨床薬理学の新時代　精神神経疾患の精密医療を実現するための
臨床薬理学的検討　抗転換薬の薬物動態解析の観点から
第42回日本臨床薬理学会学術総会、2021年12月９日-11日、仙台（hybrid）

佐伯吉規
コロナ問題に、リエゾンチーム、緩和ケアチームができること：COVID-19に対する
症状マネジメント：せん妄や呼吸困難を中心に.
第117回日本精神神経学会学術総会、2021年９月19日－21日、京都

佐伯吉規
新理事長と語る！- 学会に求められる役割と未来予想図 -
いわゆる「無床総合病院精神科」にスポットを当てる。現状を明らかにすべく何を行うべきか
第34回日本総合病院精神医学会、2021年11月19日－20日、福井

佐伯吉規
1.53から２へ：無床総合病院精神科医を増員させるには？.
我が国の無床総合病院精神科の現状～基礎調査の結果から～
第34回日本総合病院精神医学会、2021年11月19日－20日、福井

佐伯吉規
終末期における患者・家族とのコミュニケーション.
緩和領域におけるせん妄の意思決定能力とその支援
第34回日本サイコオンコロジー学会総会　2021年 9 月18日-19日、web開催

佐伯吉規
せん妄患者におけるケースワークと多職種連携
第34回日本サイコオンコロジー学会総会　2021年 9 月18日-19日、web開催

佐伯吉規
総合病院精神科の実践を医療政策に生かす
無床総合病院精神科の現状 取り組んでいるもの
日本総合病院精神医学会 第10回医療政策フォーラム　2021年12月11日、Web開催.

古郡規雄
次世代構想委員会に期待すること.
第30回日本臨床精神神経薬理学会学術総会 （On line） 2021.1.

古郡規雄
海外研修医、ポールヤンセン賞ウイナーが切る臨床精神神経薬理学会.
第30回日本臨床精神神経薬理学会学術総会 （On line） 2021.1.

古郡規雄
抗うつ薬の退院時処方の特徴.
第30回日本臨床精神神経薬理学会学術総会 （On line） 2021.1.

古郡規雄、橋本亮太
うつ病診療の将来. 第18回日本うつ病学会学術総会（横浜hybrid）2021.7.

古郡規雄
クロザピンを普及させるために-アンケート調査から-
第117回日本精神神経学会総会. 京都　2021, 9.

古郡規雄
臨床現場におけるクロザピンの現状と課題
第117回日本精神神経学会総会. 京都　2021, 9.

古郡規雄
新型コロナの薬物治療中の患者に対する精神科薬物療法の留意点
第117回日本精神神経学会総会. 京都　2021, 9.

古郡規雄
薬物療法 Up to date　指定発言　精神神経学会薬事委員会シンポジウム
第117回日本精神神経学会総会. 京都　2021, 9.

古郡規雄
ケタミンの臨床薬理
第34回日本サイコオンコロジー学会総会　2021年 9 月18日-19日、web開催

古郡規雄
共同研究の進め方
第31回日本臨床精神神経薬理学会学術総会　東京　2021,10.

古郡規雄
薬物相互作用概論
第31回日本臨床精神神経薬理学会学術総会　東京 2021,10.

古郡規雄、橋本亮太
ガイドライン普及の取り組みについて、精神科の多剤併用を克服するために
第31回日本臨床薬理学会　仙台 2021,12.

＜その他＞

統合失調症薬物治療あれやこれや　　イブニングセミナー
第30回日本臨床精神神経薬理学会ONLINE　2021年 1 月 9 日－10日

下田和孝、志水太郎、石橋弘昭、伊谷野和弘、瓦井幹人、川原美由紀、荒川　聡、加納一樹、
後継者育成のための獨協医科大学の取り組み　「Dの血族」
第48回獨医祭　ONLINE

編集後記

今年も新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。少しずつ自粛が緩和していますので、このままの方向でいってほしいものです。最近の出来事は、毎年自宅に雀が来ているので、今年もガレージに米粒 100 個ほどを置いておくと数時間できれいになくなっているので元気に食べていると思っておりました。しかし、雀の鳴き声が聞こえないのに餌がなくなっていることを不思議に思い、次の機会に隠れて観察していると、大量の蟻が米粒を運んでいるのを発見し、愕然としました。（NF）

皆さんのプライベートな一面を見られる同門会誌となっております。
ご寄稿いただいた先生方には厚く御礼申し上げます。
今年こそは納涼会･忘年会で､皆様にお会いできることを楽しみにしております。
（OR）

私が校正をしていていつも迷うのが「誤字脱字」なのか､「そういった粋な表現」なのかという事です。下田先生から「日本語力が足りない」と言われているのはこういう事かと実感しつつ頭を悩ませておりました。（TO）

表紙の写真「大谷資料館の地下空間」

獨協医科大学精神神経医学教室
同門会誌　第14号

2022 年 6 月 30 日発行
編集発行人　獨協医科大学精神神経医学教室同門会
発　行　所　獨協医科大学精神神経医学教室同門会
獨協医科大学精神神経医学教室内
栃木県下都賀郡壬生町北小林 880 番地
TEL 0282-86-1111（代表）
印　刷　所　鈴木印刷株式会社
栃木県宇都宮市平出町 3751-11
TEL 028-660-3555（代表）

Eisai

hhc
human health care

患者様の想いを見つめて、薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけではなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

AFUTUREFREEOFLF
GlobalAlliance
エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元（文献請求先及び問い合わせ先）
住友ファーマ株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉
くすり情報センター
TEL 0120-034-389
受付時間／月～金 9:00～17:30（祝・祭日を除く）
https://sumitomo-pharma.jp/

2022.04

Better Health,
Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、
輝かしい未来に貢献するために、
グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、
革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781 年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、
常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、
社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp

Takeda

日本イーライリリーは製薬会社として、
人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、
がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、
成長障害、疼痛などの領域で、日本の医療に貢献しています。

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.co.jp

janssen
PHARMACEUTICAL COMPANIES OF
Johnson&Johnson

持効性抗精神病剤　劇薬　処方箋医薬品*

ゼプリオン TRI® 水懸筋注 175mg 263mg 350mg 525mg シリンジ

XEPLION TRI® Aqueous Suspension for IM Injection

パリペリドンパルミチン酸エステル持効性懸濁注射液　*注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元（文献請求先・製品情報お問い合わせ先）
ヤンセンファーマ株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2
https://www.janssen.com/japan/
https://www.janssenpro.jp（医薬品情報）

© Janssen Pharmaceutical K.K.2020-2021

2021年10月作成

PROGRESS IN MIND | Japan Psychiatry & Neurology Resource Center

精神医学・神経医学界を支援するための医学情報ウェブサイト

Progress in Mind Japan Resource Center

ルンドベックは精神・神経疾患に特化したグローバルな製薬企業として、
治療の向上に貢献すると同時に、精神・神経疾患に関する知識の普及と理解促進に取り組んでいます。

Progress in Mind Japan Resource Centerは、
ルンドベックが世界の精神医学・神経医学界を支援することを目的に、
それぞれの言語で提供している医学情報コンテンツです。

Contents

最新ニュース
国内外の医学誌・医学会における研究発表をもとに配信される最新ニュースをご紹介

インタビュー
精神・神経疾患領域の第一線で活躍されている先生方のインタビュー記事・動画を掲載

学会ハイライト・文献レビュー
精神神経医学領域で注目の話題を取り上げ、専門性を活かしたオリジナル記事を掲載

精神・神経領域における医学情報コンテンツ～Progress in Mind Japan Resource Center～は、
下記URLまたは2次元コードからご登録をお願いします。

japan.progress.im

ルンドベック・ジャパン株式会社
〒105-0001 東京都港区虎ノ門四丁目1番17号 神谷町プライムプレイス

LuJ-A4-2021PiM

VIATRIS | Sumitomo Pharma

セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤（SNRI） 薬価基準収載

イフェクサー®SR カプセル 37.5mg・75mg

EFFEXOR® SR CAPSULES

ベンラファキシン塩酸塩徐放性カプセル

注意－医師等の処方箋により使用すること

劇薬 処方箋医薬品

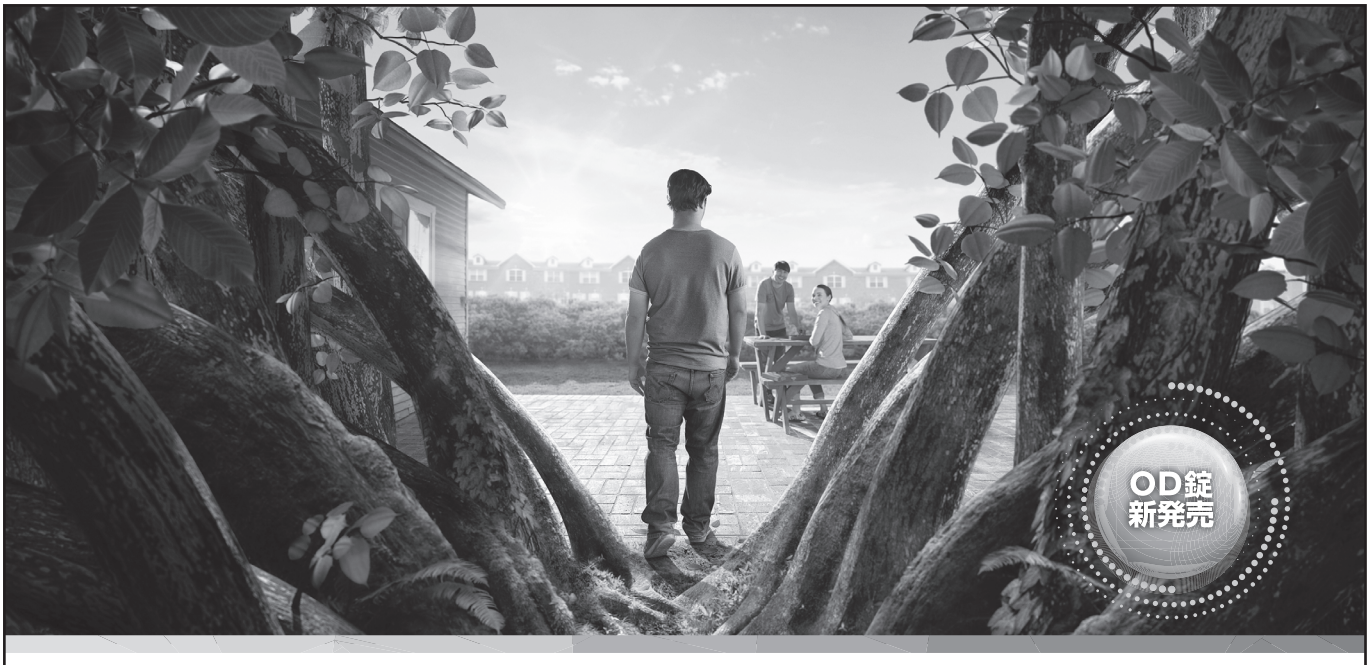
●効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については、電子添文をご参照ください。

製造販売
ヴィアトリス製薬株式会社
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-11-2
文献請求先及び問い合わせ先：メディカルインフォメーション部

プロモーション提携
住友ファーマ株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町2-6-8
文献請求先及び問い合わせ先：くすり情報センター

EFX72K005D
EFX P-13326v03

2022年2月作成



抗精神病薬

レキサルティ®

REXULTI® 〈ブレクスピプラゾール製剤〉

劇薬、処方箋医薬品注）

注）注意－医師等の処方箋により使用すること

錠1mg 錠2mg OD錠0.5mg OD錠1mg OD錠2mg

薬価基準収載

◇効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

文献請求先及び問い合わせ先
大塚製薬株式会社 医薬情報センター
〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー

〈'21.12改訂〉

健康にアイデアを
meiji

抗精神病剤
劇薬 処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること) 薬価基準収載

シクレスト®舌下錠
5mg・10mg

SYCREST® SUBLINGUAL TABLETS 5mg・10mg
アセナピンマレイン酸塩舌下錠

ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤
劇薬、処方箋医薬品(注)
薬価基準収載

リフレックス®錠15mg・30mg

REFLEX® TABLETS 15mg・30mg ミルタザピン錠

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元
Meiji Seika ファルマ株式会社
東京都中央区京橋 2-4-16
https://www.meiji-seika-pharma.co.jp/

〈文献請求先及び問い合わせ先〉
Meiji Seika ファルマ株式会社 くすり相談室
〒104-8002 東京都中央区京橋 2-4-16
フリーダイヤル(0120)093-396
電話(03)3273-3539、FAX(03)3272-2438

作成：2021.08

KAITEKI Value for Tomorrow
三菱ケミカルホールディングスグループ

精神科医療の
真のパートナーを
目指して

田辺三菱製薬グループ

吉富薬品株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10
http://www.yoshitomi.jp/